

Sustainability Report 2021



**REMATEC
GROUP**

設立 47年

リマテックグループは、大阪湾の網元の系譜を引く水産会社を母体として1974年に設立し、1984年に漁業の持続可能性を担保するために「海洋汚染の原因」である廃油、廃液を原料として燃料を製造する「資源循環事業」を開始しました。

現在では「環境修復事業」や「再生可能エネルギー事業」も行うなど、環境分野での社会的課題の解決と持続可能な社会の構築に貢献する事業に取り組んでいます。

編集方針

CSRレポートから「サステナビリティレポート」に進化

リマテックグループは、当グループのCSR活動について、すべてのステークホルダーの皆様にご報告することを目的に情報を開示しています。2021年版では、レポート名称を「サステナビリティレポート」に改め、当グループの事業活動がSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献しているかを明確にし、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをまとめております。

私たちの想いを「共感」し合える皆様に、持続可能な社会の実現に向けたイノベーションを推進するための「8つのソリューション(攻め)」をご紹介します。また、従来より行っているCSR経営の成果は「3つの約束(守り)」にてご報告いたします。

巻頭では「継承する想い」として3時間に及んだ会長へのインタビュー内容を掲載いたします。これは、目まぐるしく変わる事業環境に対し、柔軟に変化するグループであっても変わることのない価値観です。

報告対象範囲

リマテックホールディングス、リマテック九州、リマテック東北、リマテックR&D、RTT、バックキャストテクノロジー総合研究所を主な報告対象としています。

報告書発行

2021年12月

報告対象期間

2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)
ただし、上記期間以外の活動も報告しています。

免責事項

当報告書は、発行時点の情報に基づいて作成しています。将来の社会変化によって実際の成果等は変わる可能性があります。

情報開示体系

当報告書は、リマテックグループのSDGs達成に向けた取り組みとCSR活動を報告しています。また、ホームページでは各社の事業紹介や日々の活動をリアルタイムに更新していますので、是非ご覧ください。<http://www.rematec.co.jp>

参考ガイドライン

GRI「サステナビリティレポートガイドライン」、環境省「環境報告ガイドライン2018年版」、「地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン」

報告書に関するお問い合わせ先

RTT株式会社
〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0672 fax.072-280-0673



CONTENTS

04 理念

- 04 継承する想い
- 06 理念とビジョン
- 08 トップメッセージ
- 10 グループ会社
- 12 事業領域
- 14 歴史
- 16 SDGsに対する考え方

20 「攻め」8つのソリューション

- 22 ATARA
- 23 RF(石炭代替燃料)事業
- 24 環境帳
- 25 公民連携の推進
- 26 トレーラ輸送とトレード輸送
- 27 環境修復
- 28 資源循環の推進
- 29 未来レシビ

30 「守り」3つの約束

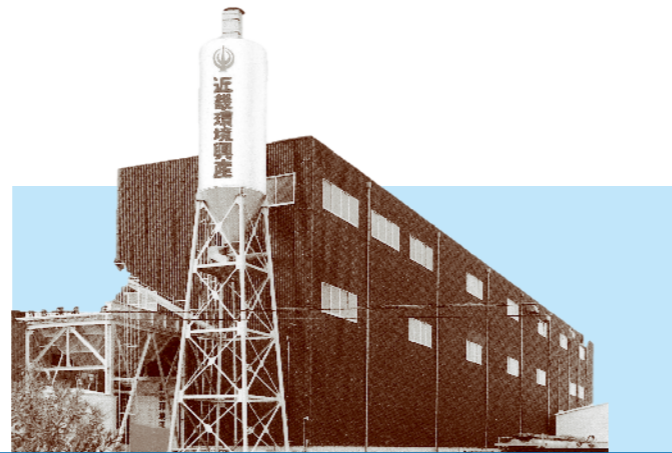
- 31 脱炭素への取り組み
- 34 従業員とともに
- 40 地域社会に貢献

42 データ・その他

- 42 RF事業における環境パフォーマンスデータ
- 43 データ実績
- 44 環境・安全衛生活動報告データ
- 45 3カ年目標
- 46 第三者意見
- 47 第三者意見を受けて/企業情報

Legacy

継承する想い



MASATOSHI TANAKA -Interview-

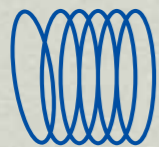
Interviewer : Isamu Hisanaga , Takashi Yoshida , Junji Kitazaki , Akiko Hakoda , Mayo Tada

面白いな、楽しいなといろんなことを感じる

この仕事を通して、知り合った人や縁ができた人がいる。その仕事の中で、自分をどう表現していけるか、自分がめぐり合って良かったと思うのか。始めは良かったなんて思わなかったとしても、やっぱり仕事をしていくうちに、面白いな、楽しいなといろんなことを感じる。もちろん仕事だから、楽しいことなんてよっぽどないと思う。

みんな壁にぶち当たって、越えて、また壁にぶち当たって越えて。1つずつ壁を越えるたびに、喜びや達成感が湧いてきて、それでもうちよつとやっていこうという思いになると思う。

たまたま立場によってそれができる場合とできない場合がある。僕はこの仕事を始めた時に、「こうしたいな」、「ああしたいな」、「もっと大きくしたいな」という思いがあった。与えられた仕事の中で、自分がどういう風に仕事を理解して熟して、楽しんで成果を出していく…。そういうことは、成長していく上で必要だと思う。



REMATEC

Innovation for the Earth

リマテックホールディングス株式会社

取締役会長 田中正敏

正当な評価で、正当な仕事を

まともな仕事をしている人が、日の目を見ないということは面白くない。だから真面目に仕事をしているみんなが報われるように、ISO9000シリーズやISO14001を日本の産業界は取得し始める中で、我々も社会の流れを見ながら業界では初めてISO14001の認証を取得した。でも、どう情報発信をすればいいか。それには環境報告書が必要だった。

RF事業のスタートは、人がやっていないことをやって本当にしんどかったけど、出口ができた程度はやっていけた。自分たちがやっている仕事は、社会からは「産廃だろ」と見られるけど、そうじゃなくてモノづくりと一緒になんだと。正当な評価で、正当な仕事をしたいと思ってやってきただけである。それが少しずつ花開いてきた。

真面目に仕事に取り組む

当たり前のことをするってなかなかできない。やっぱり自分が置かれている立場で、真面目にしっかり取り組んでおけば、運がついてくるんじゃないかと思う。見ている人は見てくれている。そして、何かあった時に応援してあげようとか、何かしてあげようとか、そういう気持ちが湧いてくるのが人間だと思う。

どんな立場、仕事であっても手を抜かずに自分の能力を出してほしい。結局は、真面目に仕事してくれよってことだ。

特別難しいことをしてほしいわけじゃない。できれば、「これでいいのか」、「こうしたらいいんじゃないか」と少し疑問に思っしてほしい。

今まで仕事をしてきた中で培ったみんなの経験やノウハウというのが、いろんなところで役に立っている。みんなが頑張ってくれていると同時に、多くの人脈を持っていたということだ。仕事に関わる人たちとずっとお付き合いをやってこれたというのは非常にありがたい。なぜかという、やっぱり真面目に付き合ってきたからだと思う。いい加減なことをしていたら次から絶対に声をかけてもらえなかったと思うし、真面目に取り組んできたから次の仕事につながっている。

アンテナを張って情報を先取り

社会の変化に対応するために、2000年の初め頃に未来塾を開講し、当時環境のトップクラスであった講師の先生方からいろんなことを勉強した。先生方が言っていた通り、脱炭素の時代となった。これからは社会が変化していく中で、情報をどう受け取り、アンテナを目いっぱい張って、アイデアや目線が行くように準備をしておいてほしい。

今やっている「環境エネルギー」分野の中で、正当で王道な仕事をして社会に認知してもらおう。その中で社会の変化に合うように情報を先取りして、自分なりのシミュレーションをみんなとて考え、そしてそこに研究開発やシステムを考えたりしていくのが、リマテックの将来じゃないかなと思う。

100年以上続く会社を目指そう

ぼろ儲けしなくてもいい。適正な利益をもらえたらいい。我々がしっかりすることで、社会が良くなることに貢献できる。今の仕事をしっかり守って、その範囲の中で広げていくというのが一番確実で、安定して豊かだと思ふ。

こんなに王道走って宝くじ当たるような金儲けはできない。でも結果的に、「100年以上続く会社を目指そうよ」。

インタビュー編集後記

3時間に及んだインタビューは、リマテック創業当時のお話や、田中会長のプライベートな内容にまで。紙面ではその全てをお伝えできないのですが、リマテックの「性格」として、私たちが継承したい想いを編集いたしました。



理念とビジョン

グループ経営理念

あるべき社会像の実現

- ◎すべての人が安全に安心して暮らせる社会
- ◎「環境」と「経済」が共存した持続可能な社会
- ◎自然の摂理にかなった循環社会

企業の役割・社会的責任

- ◎価値創造
- ◎組織が社会に与える影響に責任をもつ
- ◎社会的課題の解決に貢献する

環境理念

リマテックグループは、地球環境の保全が人間の存続可能な発展のために不可欠な重要課題であることを自覚する。よって、環境負荷低減、省エネルギー、省資源に努め、環境との調和を図りながら、事業活動等を実践し、持続可能な社会の構築に貢献することを環境の基本理念とする。

安全衛生理念

リマテックグループは、事業活動等を通じて社会への貢献を図るとともに、社員の安全衛生の確保は企業の存立の基盤をなすものであり社会的責任であることを自覚する。よって人間尊重の理念のもと、「安全第一」、「快適な職場環境」を安全衛生活動の基本理念とする。

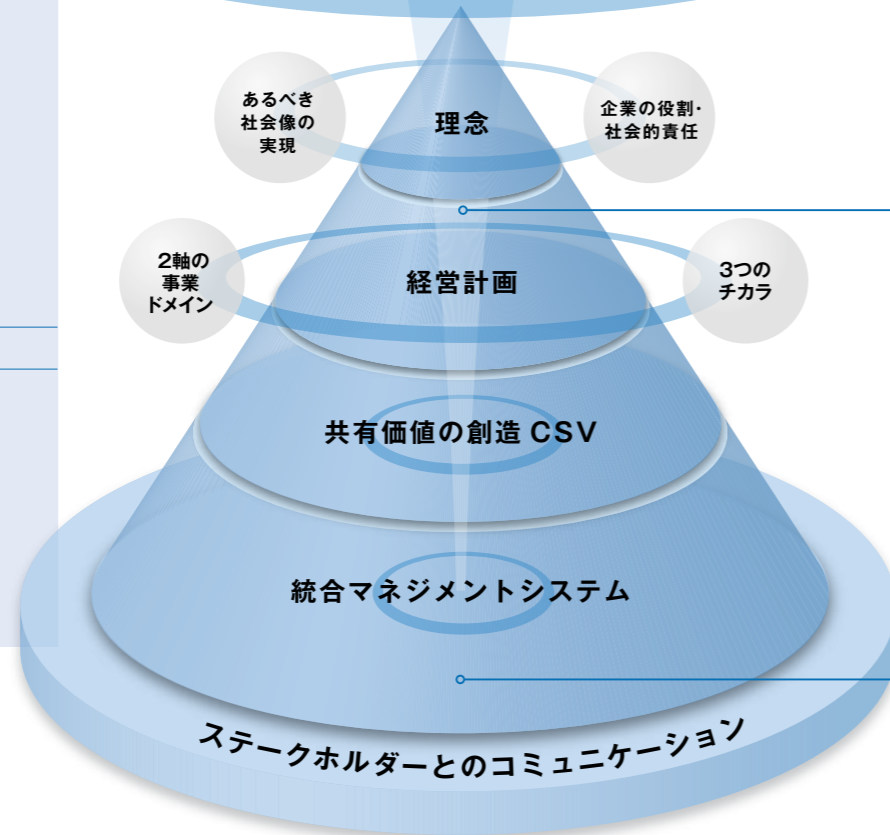
技術 (Technology) をコアに、地球資源である物質 (Material) を無駄なく効率よく循環 (Recycling) させることによって、持続可能な社会の構築に貢献できるグループを目指す。

コーポレートスローガン

Innovation for the Earth

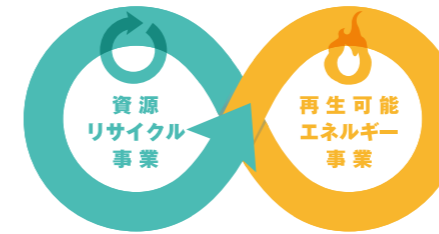
リマテックグループのミッション

環境分野における社会的課題に対応するイノベーションを創出すること



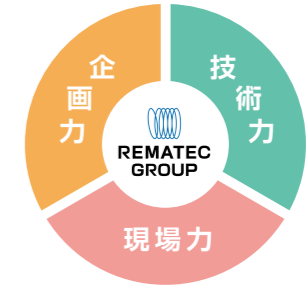
「地域の課題解決」を支え、未来を創造する2軸の事業ドメイン

国や地域によって背景も原因も多種多様な環境問題。その課題解決として、リマテックグループでは「資源リサイクル事業」「再生可能エネルギー事業」の2つを事業の軸として、地域の将来を見据え、課題に柔軟に取り組んでいます。



グループならではの「3つのチカラ」を集集し、事業を推進

長年のノウハウと経験による「企画力」「技術力」「現場力」を集集させ、地域に根ざし、地域の声を聞き、そして地域の力を借りながら、それぞれが抱える課題の解決に貢献していきます。



社会システムの変化に対応できる「サステナブルプラットフォーム」の構築

SDGsやパリ協定、EU循環経済等の環境・エネルギー分野を取り巻く諸課題を踏まえ、バックカスティングを用いて、2050年における「未来」の社会に求められる技術や生活様式を明らかにし、温室効果ガス(CO₂)排出の大幅な削減に耐えられる事業構造を探るとともに、業界横断でCO₂を排出しない新しいビジネスモデルの実現を積極的に推進します。

2050年になっても社会インフラを支え、社会に貢献できるグループであるために、3つの重点項目を柱とした「サステナブルプラットフォーム」の構築に邁進し、事業活動を通して、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決に取り組んでまいります。

社会システムの変化に対応した適切なマネジメントシステムの構築

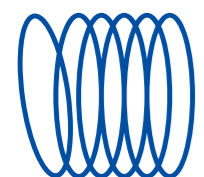
- ・SDGsへの対応
- ・脱炭素社会への対応
- ・グループ経営管理システムの整備

社会システムの変化に対応できる技術および技術力の獲得

- ・2050年にグループの事業ドメインに必要な技術の抽出
- ・必要となる技術の取り込みのための技術開発
- ・必要となる技術の取り込みのためのアライアンスネットワークの構築

社会システムの変化に対応したビジネスモデルの構築

- ・脱炭素社会に適したビジネスモデルの構築
- ・地産地消型地域ビジネスモデルの構築
- ・新たにグループ内に取り込んだ技術を活用した社会実装モデルの構築



リマテックのロゴマーク

グループのロゴマークは、一つひとつのサークルが小さな循環を意味し、そのサークルが連鎖することによって資源循環型社会が構築されていくことを表しています。当グループの提供する資源循環サービスの一つひとつが資源循環型社会構築に貢献していきたいという想いが込められています。当グループは確かな技術とノウハウ、これまで培ってきた経験と実績をベースに、よりいっそう顧客価値創造に取り組み、ビジネスパートナーとして皆様の企業価値向上に貢献し、ステークホルダーの皆様と持続可能な社会づくりに邁進する所存です。

TOP MESSAGE

トップメッセージ

100年以上存続できる会社を目指して 誠実に挑戦し続ける

リマテックホールディングス株式会社
代表取締役社長

田中 靖訓



新型コロナウイルス感染症の拡大が私たちのライフスタイルに大きな変化をもたらしており、いつ、どのように収束していくのかはまだ見通せない状況ではありますが、そういった状況下で、2021年度は日本にとってまさに「脱炭素元年」と言える年でありました。

2020年10月26日に当時の菅総理が「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指すこと」を宣言して以降、国内の行政、企業から一般市民に至るまでのあらゆるセクターにおいて、脱炭素に関連する活動が活発になっています。

持続可能な社会づくり

人類全体の共通目標であるSDGsの17の目標のうち「目標13：気候変動対策」は、多くの他のSDGs目標と関連しています。気候変動は、生態系や水をはじめとする各種資源、人々の健康や貧困、経済等幅広い範囲で大きな影響を与える人類最大の課題です。

この「気候変動対策」は、「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションを創出すること」をミッションとして掲げる当グループとの親和性も高いことから、経営の最重点項目とし、持続可能な社会づくりに貢献できる道を探っていくと考えています。

CO₂排出量の見える化

グループ内のシンクタンクである株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所では、CO₂排出量の見える化をサポートするアプリケーションである「環進帳」を開発し、グループ内のみならず広く一般向けにもウェブ上で公開しています。

脱炭素社会を実現していくためには、まずは現状把握、すなわち現状のCO₂排出量の把握が必要不可欠ですが、SCOPE-3まで含めたCO₂排出量の算出は非常に複雑です。中小企業を含めた多くの方が現状把握に取り組んでいくためにはできるだけ手間暇をかけずに算出できるツールが必要だと考え、「環進帳」ではどの企業でも持っている会計データからCO₂排出量を把握するとともに、企業のコストダウンや脱炭素化目標設定を支援する機能も備えています。

私たちが開発したツールがこれから脱炭素化に取り組もうとされている多くの方々にとって、一歩踏み出すきっかけになればと考えています。

公民連携で脱炭素社会の実現へ

また、地域の脱炭素化を推進するためには産官学民の連携したプラットフォームが必要であると考え、大阪府と連携して2021年7月に「OSAKAゼロカーボンファウンデーション(通称：OZCaF)」を立ち上げ、リマテックホールディングスは代表理事の重責を拝命しました。2021年12月現在で自治体、企業合わせて200団体以上の方々にご参画いただき、地域の脱炭素化への取り組みを開始しています。

2050年という遠い目標に向かって活動を行うことは容易ではありません。公民連携により、信頼性、公共性、安定性といった公の強みと、スピード感、変化への対応力、多様な資源といった民の強みの両方を活かして、脱炭素化という社会システムの変化に対応するビジネスを創出し続けることが、継続的に安定した活動を行っていくためには重要だと考えています。

2025年の万博開催を控える大阪が2050年の脱炭素社会実現における先導的な役割を果たしていけるよう、参画いただいている方々と連携しながらグループあげて微力を尽くす所存です。

100年以上存続できる会社を目指して

脱炭素社会に向けた社会の変化は産業革命に匹敵するくらい大きなものであると言われています。とすればこういった環境制約は「我慢を強いる」ものであると思われがちですが、人類は創意工夫を重ねていくことで「我慢をする」ことなく人々がこれまで以上に快適で豊かな生活を実現することができると確信しています。そのためには、資源、エネルギーのみならずモビリティやデジタルといった分野をまたいだ横断的なイノベーションが今後次々と生み出され、私たちのライフスタイルはどんどん変化していくことと思います。

私たちリマテックグループは2024年に創立50周年を迎えます。長きにわたり企業として存続できたのは、その時々の変化に対して私たち自身も少しずつ変化してきたことをステークホルダーの皆様にご理解、ご支援いただいた賜物だと思っております。

今まさにこれまでで一番大きな社会変化の真っ只中の中で、「2050年になっても社会インフラを支え、社会に貢献できるグループであるためには…」を常に考え、100年以上存続できる会社を目指して、誠実に挑戦し続ける所存ですので、私たちグループの活動にご期待いただき、ステークホルダーの皆様の変わらぬご理解、ご支援をお願い申し上げます。

REMATEC GROUP



REMATEC HOLDINGS
リマテックホールディングス株式会社



代表取締役社長
田中 靖訓



株式会社レックス
株式会社レックスRF



代表取締役
塩見 頼彦

- ◎廃棄物関連コンサルティング
- ◎廃棄物再資源化技術
- ◎施設運転管理業務



レックス



レックスRF



リマテック九州株式会社



代表取締役
矢野 真一郎

- ◎産業廃棄物処理業
- ◎再生燃料(RF)製造事業
- ◎産業廃棄物収集運搬業
- ◎設備メンテナンス事業



リマテック東北株式会社



代表取締役
藪 哲之

- ◎資源循環に関する請負事業
- ◎資源循環コーディネート業務
- ◎未利用資源を活用した製品製造業務
- ◎産業廃棄物収集運搬業



リマテックR&D株式会社



代表取締役社長
河本 一誠

- ◎新規事業・技術の開発
- ◎コンサルティング業務



RTT株式会社



代表取締役
久永 勇

- ◎貨物自動車運送事業
- ◎産業廃棄物収集運搬業
- ◎労働者派遣業



株式会社バックキャストテクノロジー
総合研究所



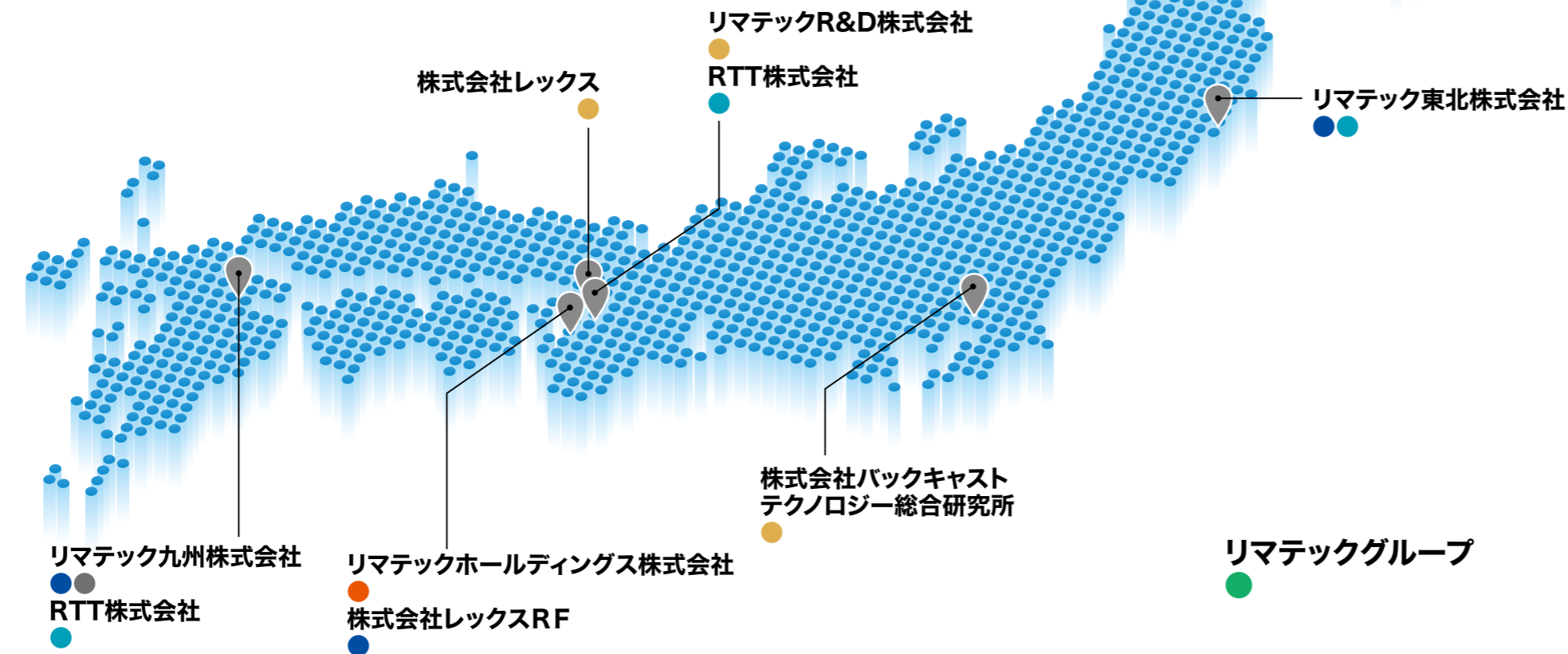
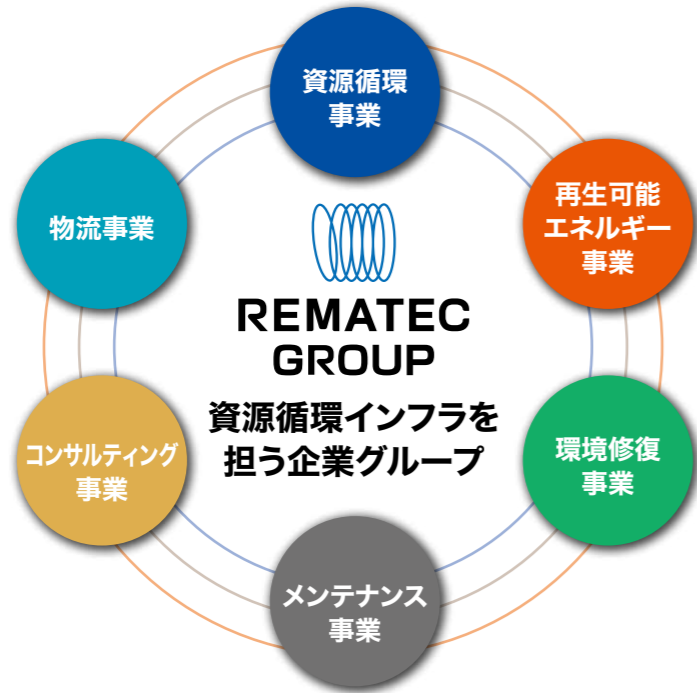
取締役社長
傘木 和俊

- ◎環境・エネルギーコンサルティング
- ◎ライフスタイルデザイン



リマテックグループの事業領域

リマテックグループは、資源循環事業を中心とした環境ビジネスを生業とし、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決を主たる事業領域としています。



主な事業内容

資源循環事業

さまざまな産業から排出される産業廃棄物を、セメント工場の石炭補助燃料となるRFへ再資源化しています。
もったいないものを余すことなく使うものづくりを目指し、リサイクルシステムから地産地消型資源循環システムへの転換に向けた新たなバリューチェーンの構築を行っています。



再生可能エネルギー事業

脱炭素社会の実現および、再生可能エネルギー100%を目指し、国内4か所に大規模な太陽光発電パネルを設置しています。自然環境にやさしい「再生可能エネルギー」の普及促進に努め、企業の社会的責任としての環境負荷低減などを通じて社会に貢献します。



物流事業

廃棄物を資源循環させる「静脈産業」や、原料・製品・エネルギーを供給する「動脈産業」と荷主様をつなぐ物流事業を行っております。タンク車(トラック・トレーラ)を中心に、さまざまな車両を取り揃えるほか、日本各地に物流ネットワークを構築し、お客様の多種多様なニーズにお応えしています。



環境修復事業

不法投棄された産業廃棄物や、海難事故による原油流出、大規模な地震・洪水等で発生した災害廃棄物などを早期撤去し、一日でも早い生活環境の回復に向け、復旧・復興支援事業に取り組んでいます。グループの総合力により一貫した処理スキームの構築や提案・施工を行っています。



コンサルティング事業

グループが保有するノウハウや物流網を活用することで、お客様に寄り添ったベストな資源循環ソリューションを提案し、事業の成長と脱炭素社会の実現に貢献します。脱炭素化、SDGs推進、ライフスタイルデザイン、サーキュラーエコノミー等の社会課題解決に向けたコンサルティング等の支援も行っています。



メンテナンス事業

各種設備メンテナンス等の実績で培ったノウハウを活かし、お客様の希望に沿ったメンテナンス方法と安全対策を提案・施工しています。大型タンク内清掃や各種設備清掃時に発生する廃棄物について、より良いリサイクル方法や処理方法をご提案する一元管理サービスも行っています。



リマテックグループの歴史

1970年代高度経済成長期に伴う海洋汚染を契機に、さまざまな環境問題に正面から向き合い、改善に取り組んできたリマテックグループ。試行錯誤しながらも「変化」へ対応してきた私たちの歩みを一部ご紹介します。

1974年～

1974
近畿環境興産株式会社設立
海洋汚染の主要原因である廃油・廃液を処理するべく「近畿環境興産株式会社(のちのリマテック株式会社)」を設立
翌75年より産業廃棄物の収集運搬業務を開始

1983
大阪工場RFプラント建設
「廃棄物をリサイクルして有効活用するべき」という信念のもと、大阪に廃棄物からセメント焼成用再生燃料「RF」を製造する工場を新設



1985
**北九州営業所開設
タンククリーニング事業開始**
1988
九州工場RFプラント建設
大阪に続き大分県にもRF工場を新設し、九州における廃棄物処理の本格展開がスタート

1992
関西空港-PJ
関西国際空港建設に伴い空港島内で発生する建設廃棄物の処理マネジメント

1993
大阪工場リプレイス





台湾RF-PJ
中華民国・高雄へ廃棄物処理再生技術(RF燃料製造)を技術移転

1995
震災廃棄物処理-PJ
阪神淡路大震災の震災廃棄物処理管理業務

1996
韓国-PJ
韓国蔚山広域市において、大手石油精製工場のRFプラント建設、技術移転、および運転支援を実施

1997
ナホトカ号-PJ
ロシア船籍タンカー(ナホトカ号)が破断し、日本海沖に漂流・漂着した事故において、重油の回収・処理・処分を実施

日本海を覆った排出重油等の総回収量は、海水・ゴミ・油泥砂などを含め、約5.9万tにも及び、船舶輸送を含め、全国7件10箇所にて対応

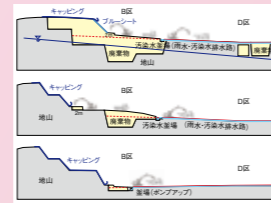



2000年～

2000
廃棄物再資源化-PJ
食中毒事件に伴う廃棄物処理のマネジメント

2001
橋本-PJ
橋本市ダイオキシン汚染現場の不法投棄廃棄物処理マネジメント

2002
岩手青森県境-PJ
岩手・青森県境不法投棄事案での原状回復事業における施工管理業務および選別プラント、水処理プラントの設計・建設を実施
投棄・埋没された廃棄物の種類を算出されたマトリックス・シミュレーションにより予測して選別フロー・選別処理基本システムを設計し、作業におけるリスクおよび周辺へのリスクの最小化を図りながらの原状回復を約11年かけて終了



2006
亜臨界水処理プラント建設
環境省より「エコタウン補助金」を受けて、大阪府堺市に亜臨界水処理プラントを中心とする堺SC工場を新設



2007
北九州PCB-PJ
PCB汚染土壌処理施設運転管理業務

2007
洲本-PJ
亜臨界水処理によるメタン発酵エネルギー活用プロジェクト

BOFc大船渡-PJ
大船渡工場BOFc(Biomass & Oily Sludge Fuel)製造設備の設計、建設、運転支援

2008
3S(トライエス)-PJ
家電メーカー堺新工場でのオンサイト廃棄物自家処理・再資源化システム提案


2009
NaK-PJ
原子炉の冷却剤利用として研究されていたNaK[®]の廃棄が課題となっており、処理方法を提案
安全対策・防災訓練をもとに、模擬作業演習を実施
低酸素作業室を自作し、オンサイト設置、NaKの安全な回収を実現
※NaK=金属ナトリウムカリウム合金。空気が水分に触れると爆発的に反応・炎上する取扱い困難物質

2010年～

2010
リマテック株式会社に社名変更
岐阜不法投棄原状回復-PJ
不法投棄産業廃棄物を処理するにあたり、不法投棄廃棄物が発熱していることが判明
燃焼箇所を消火する注水消火の補助工法を提案し、水蒸気消火を実施

2011
東日本大震災復興-PJ(岩手県)
海水を被ったがれき(災害廃棄物)を処理するための除塩プラント、仮置場災害廃棄物を選別する二次選別プラント、津波堆積物を処理する分級プラントの設計・施工・処理を実施

二次選別作業における災害廃棄物処理(大船渡市 約84万t、陸前高田市 約119万t)、除塩事業による災害廃棄物処理(岩手県 約93.5万t)、分級プラントにおける災害廃棄物処理(陸前高田市 約83万t)。



2012
滋賀県大津市-PJ
ドラム缶約450本に及ぶ不法投棄の支障除去業務および再生燃料化・焼却などの処理を実施

タイ王国-PJ
廃棄物の実態調査・廃棄物組成分析・湿式分級装置を用いたRDF(Refuse Derived Fuel: 廃棄物固形燃料)実証試験


2013
'REMATEC & KSN Thailand' 海外現地法人設立
タイ王国における廃棄物リサイクル事業の企画推進をはじめ、アジアでの未利用資源の活用事業開発、およびそれら事業への投資を主な業務としたREMATEC & KSN Thailand (RKT) 海外現地法人を設立

2014
持株会社制に移行「リマテックグループ」へ
太陽光発電事業開始
温室効果ガスの排出量削減やエネルギーの有効活用を目的とした再生可能エネルギー活用(太陽光発電事業)を開始

九州工場RFプラント再建
2013年12月 リマテック九州工場で大船渡工場と同様に、原因究明と十分な再発防止策を施行し、関係行政機関、地元地域の方々の協力をいただきながら新工場を再稼働

二次電池材料開発-PJ
廃棄物由来の低コストな二次電池用原料の製造技術開発事業

広島災害復興-PJ
広島県広島市で発生した豪雨土砂流による災害廃棄物58万tの適正処理を実施



2015年～

2015
Green Conservation Solutions(GCS)を設立
RKTとサイアムセメントグループとの合弁会社GCSが、現地の堆肥化工場から発生する埋立残渣のリサイクル施設を竣工



バイオガス発電プラント「MFパワー1号」運転開始
大阪府では初めてとなる固定価格買取制度(FIT)適用のバイオガス発電施設として、発電事業をスタート



2016
株式会社レックス設立
関西を拠点に再資源化事業を行ってきた3社の営業部門を分離・統合して設立

熊本地震災害復興-PJ
熊本県で発生した地震による災害廃棄物98万tの適正処理を実施

2017
大分県津久見市豪雨災害-PJ
大分県津久見市を襲った台風18号の影響で河川が氾濫発生した大量の汚泥・がれき等(14,300t)の災害廃棄物の適正処理を実施

2018
ATARA事業開始
未利用・低価値な地域資源を原料としたものづくりプロジェクトをスタート



広島県呉市豪雨災害-PJ
豪雨により災害廃棄物が発生し、地元企業への災害廃棄物処理(13万t)の業務支援を実施

大阪府岸和田市災害復興-PJ
台風21号の影響による災害廃棄物2,500tの適正処理を実施

2019
タイ王国3R-PJ
「我が国循環産業の戦略的国際展開による海外でのCO₂削減支援事業」実施(3R財団補助金事業)

2020
RF岸和田工場(リマテック)を株式会社レックスRFに社名変更
燃料化事業に加え、中和水事業および混合事業を開始し、処理能力を248m³/日に増強

※PJ: PROJECT(プロジェクト)の略称
※RF(Reclaimed Fuel): セメント焼成用補助燃料製造

リマテックグループのSDGsに対する考え方

SDGs宣言

リマテックグループは、「企業活動の脱炭素化」に「オープンイノベーション」で取り組むことによって、持続可能な社会の実現に貢献します。



リマテックグループでは、さまざまなステークホルダーとパートナーシップを形成し、協働で新たなバリューチェーンやプラットフォームの構築に取り組んでいます。さらに、SDGs(持続可能な

開発目標)を企業戦略に取り入れ、事業活動を通して、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決と持続可能な社会の構築に取り組んでいます。

リマテックグループの重点項目

リマテックグループの事業活動は、SDGsの17の目標のうち、SDGsの土台となる環境「海や森の豊かさや自然」を含めた9つの目標と深い関わりがあります。このうち5つを重点項目とし、各

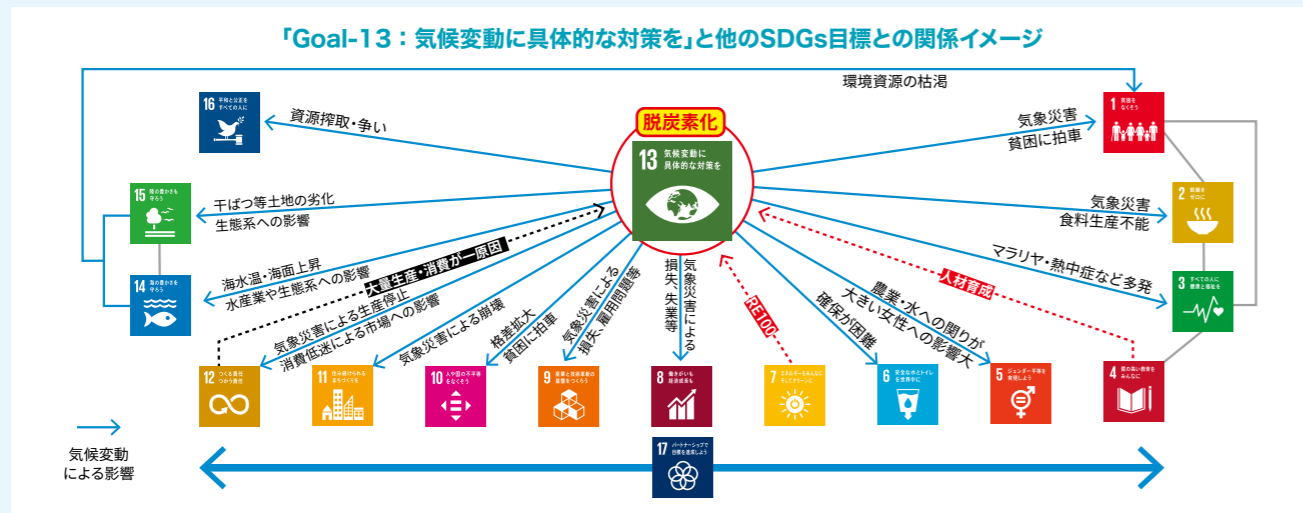
事業が連携した経営を実践し、SDGsを企業戦略として経営統合することで目標達成を目指します。



SDGsと脱炭素経営

SDGsは17の目標があり、全ての目標に取り組むことは難しいと考えています。一方で気候変動対策(脱炭素化)に取り組んでいくと、多くのSDGsの目標に関連していることが解り、気候変動

対策を中心とする取り組みでSDGsの目標達成が実現できます。このため、リマテックグループは脱炭素経営に取り組んでいます。



グループにおけるSDGsと脱炭素の取り組み

SDGsの目標達成を実現するためには、現在地の把握という意味で、グループ全体のCO₂排出量を把握する、「見える化」ということが重要と考えています。さらに、脱炭素社会の実現にはパートナーシップが不可欠です。リマテックグループでは、グループ内だけでなく、グループ外の人材、技術、ノウハウ、知識といったリソースも巻き込んで、革新的なプロダクトやアイデア

を創出するイノベーションを推進していきます。また、2050年になっても社会インフラを支え、社会に貢献できるグループであるための「サステナブルプラットフォーム」の構築に邁進し、将来にわたってステークホルダーの皆様から信頼される企業グループとなるよう努めていきます。

SDGs	2017	脱炭素
SDGsに関する社内教育の開始	4月	RE100加盟に向けての調査開始
SDGsへの取り組みを「CSRレポート2017」に掲載	12月	
	2018	
関西SDGsプラットフォームに参加	1月	3月 RE100認定要件に該当しない事が判明し加盟を断念
更に理解を深めるための社内教育「SDGsとは」の実施	7月	8月 2018年度環境省 脱炭素経営による企業価値向上促進プログラム 「中小企業版2°C目標・RE100の設定支援」 応募・採択
外部講師による社内教育「SDGsカードゲーム」の実施	11月	12月 SBT目標水準に整合した目標を設定 環境省「企業版2°C目標ネットワーク(現: 脱炭素経営促進ネットワーク)」に参加
	2019	
	5月	日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)に参加
	6月	グループ各社からCO ₂ 排出量にかかるデータ収集を開始
	8月	CO ₂ 排出量算出結果に対する第三者検証を受け認定される
	10月	RE100の中小企業版「再エネ100宣言 Re Action」に参画
	12月	CO ₂ 排出量の算出結果を開示
	2020	
地方創生SDGs官民連携プラットフォーム	6月	内閣府 地方創生SDGs官民連携プラットフォームに参加
	8月	さかいSDGs推進プラットフォームに参加
	9月	グループの温室効果ガス削減目標がSBTの認定を取得
	2021	
大阪府「私の参加SDGs宣言プロジェクト」に参加	1月	CO ₂ 排出量算定&SDGs目標設定支援アプリ「環境帳」 試行版リリース
	2月	

7月 OSAKAゼロカーボンファウンデーションに参画および事務局を運営



リマテックグループのSDGsに対する考え方

リマテックグループの「サステナビリティ」

リマテックグループは、企業の気候変動対策に関する国際的なイニシアティブであるSBT認定やRE100の中小企業版「再エネ100宣言 Re Action」への参画、環境省が創設したエコ・ファースト企業の認定、環境マネジメントシステム(ISO14001 :

2015)の認証取得など、気候変動対策のイニシアティブ等に積極的に参加しています。それぞれのイニシアティブ等の取り組み内容は関連しており、SDGsにもつながりがあるため、目標を達成することが持続可能な社会の実現につながります。



【環境対策のイニシアティブ等に参加する目的】

他社との協働	同じ志を持った機関・企業・団体などと一緒で持続可能な社会の実現に取り組むことができる
社外への発信	脱炭素に関する取り組みを社外に発信することで、脱炭素の推進に貢献することができる さらに認知度やブランド力の向上、イメージアップを図ることができる
社内への波及効果	野心的な削減目標を掲げることで、コスト削減およびイノベーションの促進につながる 企業体質の強化が図られ、社員の環境意識が向上する
リスク回避	環境リスク(事故・緊急事態など)を回避・低減する
最新動向の把握	他の参加企業を通じて、気候変動等に対する社会や他社の最新動向を把握する
他社との比較	ガイドラインやツールを使うことで、自社の取り組みを定量化し、他社との比較が可能になる



私たちのSDGs宣言

グループ各社従業員は、持続可能な社会の実現に貢献するために、具体的なアクションを起こしています。一つひとつは小さな一歩かもしれませんが、一人ひとりが事業活動を通じ、持続可能でより良い社会の実現に努めていくことを宣言します。



リマテックR&D株式会社
事業開発部
新見 尚之



14 海の豊かさを守ろう

茅渟(ちめ)の海をもっときれいに

将来の長きにわたって、大阪の海を守っていく。そのために、これまでに培ってきた知識と経験を活かし、グループ企業等と協力・連携して、廃漁網等の廃プラスチックリサイクル実現などを通じて海洋プラスチックごみの排出削減と、プラスチック資源の循環へ向けた取り組みを進めていきます。



リマテック東北株式会社
製造部
澤田 哲弥



17 パートナーシップで目標を達成しよう

ステークホルダーの皆様と
持続可能な社会づくり

資源循環に関する請負業務の中で培った知識と現場力を活かし、地域企業やステークホルダーへ新たな廃棄物再資源化コーディネートができるよう積極的に提案し、これによって創出される相乗効果を通して環境問題や地域・社会に貢献できる企業を目指していきます。



RTT株式会社
運行部
北村 秀一



8 働きがいも経済成長も

自分らしく生きるための権利を理解しよう

職場環境を良くする第一歩は、私が、自身の置かれている状況、権利を知ることです。
労働者の権利、労働に対する権利を知り理解を深め、保障の状況を確認しています。
安全で働きがいがあり笑顔で仕事ができる職場環境づくりに取り組んでいきます。



リマテック九州株式会社
生産部 製造課
藤田 洋司



14 海の豊かさを守ろう

ビーチクリーン活動を通して

私達の住む大分県は別府湾を含む瀬戸内海海域と黒潮の影響を受ける豊後水道など、魚介類の種類・量ともに豊富な漁場がいくつもあります。ただ、昨今、訪れる先々の浜辺にはプラスチック製品の残骸など、暗い未来を想像させる現実が広がっています。私は、ビーチクリーン活動を通して一つでも多くのゴミと、一人でも多くの心に響く活動に取り組んでいきます。

8

持続可能な社会を目指して 8つのソリューションを 積極的に推進

SDGsの達成に貢献

リマテックグループは、資源循環事業を中心とした環境ビジネスを生業として、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決を主たる事業領域としており、事業活動を通じてSDGsの達成に貢献し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

各事業が連携した経営を実践し、SDGsを企業戦略として経営統合することによって目標達成を目指していますが、そのためにはパートナーシップが不可欠と考えており、グループ内だけでなくグループ外の人材、技術、ノウハウ、知識といったリソースも巻き込んで、革新的なプロダクトやアイデアを創出するイノベーションを推進しています。

この多岐にわたる事業領域において、SDGsを達成するための事業活動をご紹介します。

12 つくる責任
つかう責任



ATARA リマテック東北

13 気候変動に
具体的な対策を



RF(石炭代替燃料)事業 リマテック九州

環進帳 バックキャストテクノロジー総合研究所

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



公民連携の推進 リマテックグループ

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



トレーラ輸送とトレード輸送 RTT

11 住み続けられる
まちづくりを



環境修復 リマテックグループ

資源循環の推進 リマテック東北

未来レシピ バックキャストテクノロジー総合研究所



LossをBenefitに

目標12 人々と自然が調和したライフスタイルに意識を持つようにする

12 つくる責任
つかう責任



日本で起きていること

現在、日本国内では年間646万トンもの食品ロスがあり、その量は国連世界食糧計画(WFP)が1年で世界中に行っている食品援助量の2倍にもなります。資源としても、経済的にもったいない状態になっている。それが現状です。



ATARA 一もったいない資源を 余すことなく使う もの作り

ATARAの取り組みがもたらす効果

- つくる：投入資源の使用効率の向上
生産Loss=廃棄物の削減、食品ロスの削減
- つかう：資源浪費には加わらない
買い物は未来への投票
- 地域：資源、経済Loss → Benefitに



盛岡産アロニアのルームスプレーとおからとヤギミルクのクッキー



いわてリンゴを活用したポタニカルクレヨンとスケッチブック

資源活用例

原料	作品例
果実の搾りかす(りんご、アロニア、ぶどう等) 摘花(ハーブ園での余剰分、バラ園での摘花)	ルームスプレー(蒸留水を活用) 風呂敷(乾燥物を活用) クレヨン、スケッチブック(乾燥物を活用)
おから	クッキー(乾燥おからを活用) ドレッシング(蒸留水を活用)
その他原料 検討実績あり(ビールかす、酒かす等)	大学との共同研究を実施中

コラボレーション事例

SBT&MOTTAINAIコラボレーション

共にSBT認定企業として、もったいないでつながった株式会社艶金の「のこり染」ブランドのKURAKINとATARA。今後も脱炭素経営、もったいない資源の有効活用で他企業とも連携を進めてまいります。



艶金の「のこり染」技術とコラボレーションしたTSUTSUMU

その他想定事例

- ◎素材の活用もしくは置換えを検討中の企業様(原料選定等)
- ◎自社のもったいない資源を活用したい企業様(活用検討、企業紹介)
- ◎自社の販促物をサステナブルな商品に置換えたい企業様(共同開発、OEM)
- ◎地域資源の地産地消を進めたい自治体様(資源調査～域内活用検討)
- ◎同じ趣旨の商品を扱っているが販売が伸びない企業様(共同販売)

共感を求める相手へのメッセージ

新たなバリューチェーン構築を目指しませんか？

自社だけでは取り扱える数量は限られてきますし、地域も限られますが、皆様との積極的なコラボレーションを通して、国内の資源効率向上を目指したいと考えています。些細なことからもお気軽にお問い合わせください。→info@atara-iwate.com



ATARA WEB



ATARA SHOP

循環型社会の構築

目標13 気象変動に具体的な対策を

13 気候変動に
具体的な対策を



日本で起きていること

近年の脱炭素化に向けた世界各国の動きと同様に、日本も2020年10月の臨時国会にて「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。今後、脱炭素社会実現のために、従来の化石燃料に依存する事業スタイルは大きな変革を必要とされ、エネルギーシフトの大転換を余儀なくされます。特に、石炭は石油より安価で豊富な埋蔵

量の天然資源として各国の産業を支えてきましたが、時代の潮流から最も対極にあり、多くの資源会社や商社などは、既に石炭事業からの撤退を表明しています。これから、国内においても石炭事業への投資は急激に縮小していくことが予想されています。

RF(石炭代替燃料)事業

—Reclaiming Fuel/廃棄物を利用した再生燃料—

55,443t
(2020年度RF出荷量)

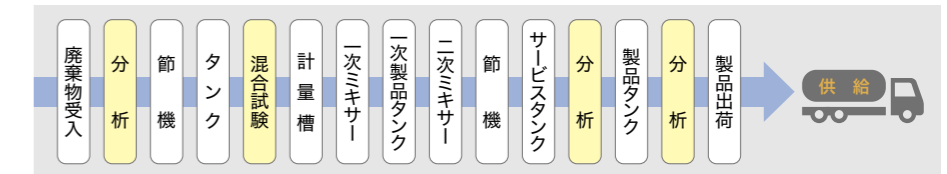
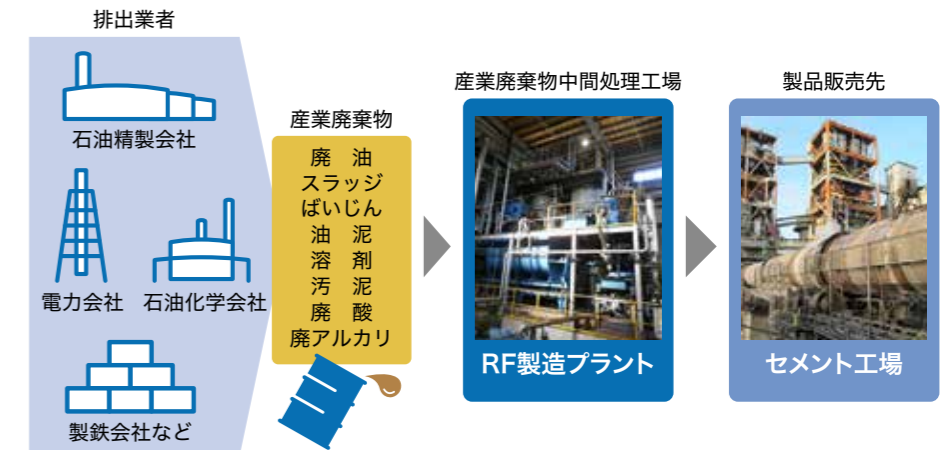


リマテック九州は、さまざまな業界から排出される産業廃棄物を原料として、専門の成分分析機関や長年培ってきた高度な分析研究に基づいたミキシング技術、24時間体制による一貫した廃棄物処理管理により、セメント会社向けの石炭代替燃料：RF(Reclaiming Fuel)を製造しています。

製造工程で生じる化学反応による安全リスクや、PCB・水銀濃度等の環境有害物質の法規制と熱源カロリーなど顧客要求基準をクリアした製品を、安定生産するとともに、製造から消費までの全行程における環境負荷「0」・脱炭素化の実現に向けて日々研究しています。

また、創業以来、社会との共存共栄の精神のもと、地域文化・伝統を守り、地域一体型の企業を目指して取り組んでまいりました。

今後も、安全・環境・品質・地域共生の全分野を統合した持続可能型モデル企業を目指し取り組んでまいります。



【RF事業の発展に向け】

- ①再生可能エネルギーとしてのマーケットの拡大
- ②再生処理廃棄物の種類拡大
(処理工程での廃プラスチックの粉碎など研究)



廃プラスチック(粉碎)

共感を求める相手へのメッセージ

環境負荷「0」・脱炭素型の循環型社会を構築するためのパートナーシップ

不法投棄による罰則強化や政府間パネル(IPCC)など、持続可能性に対する警鐘が鳴らされる中、未だ国内における不法投棄問題や脱炭素化に向けた企業動向など、完全なエネルギー循環型社会のベクトルは統一されていない状況です。私たちは、各分野のステークホルダーと多面的に業務連携することで、環境負荷「0」の脱炭素型循環型社会の実現に向け進めていきたいと思っています。

脱炭素経営の実現に向けて企業を支援

目標13 気候変動の緩和、適応、影響軽減

13 気候変動に
具体的な対策を



企業で起きていること

- エコアクション21による取り組みの限界(節電、廃棄物削減)
- CO₂排出量の開示要請(環境報告書/CSR報告書)
- 取り引き企業からの製品のCO₂データ要求
- カーボンニュートラルやRE100(再エネ100%)への注目

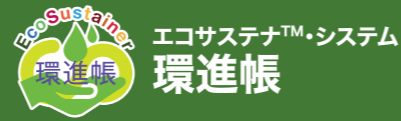
お金がかかる

情報がない

人手がない

環進帳 一会計データからCO₂排出量を把握一

特許取得済：特許第6864404号
特許第6896315号



〈環進帳〉は、企業の会計情報から

企業活動に係わるCO₂排出量を算出し、業界平均との比較結果などグラフで示すことで企業のCO₂排出量を見える化します。また、CO₂排出量、コスト削減に関連したSDGs事例を表示することなどで、今後、中小企業に求められる脱炭素経営の実現を支援するツールです。

INPUT 経理システムの会計情報から、手間をかけず

1. 貴方の会社(事業)から出る**全てのCO₂量**を把握し、CO₂量削減を支援
2. **製品(サービス)製造から出るCO₂量**の把握により、コストダウンを支援
3. “全”企業(事業)活動のCO₂量を可視化し、**環境対応**を支援
4. 企業活動における**カーボンニュートラル化の目標設定(SBT、SDGs、温対法など)**を支援

環進帳のCO₂算出範囲

モノ・サービスの購入から販売までの事業活動

環進帳で表示
CO₂排出量・紐づくSDGs事例



- エネルギーに伴う排出量
- 事務用品に伴う排出量
- 通信に伴う排出量
- 旅費交通に伴う排出量
- 廃棄に伴う排出量
- 通勤に伴う排出量

共感を求める相手へのメッセージ



お問い合わせは→バックキャストテクノロジー総合研究所
www.bct2050.com TEL. 03-5209-2050

持続可能な社会の実現

目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



世界・日本で起きていること

ヨーロッパでは脱炭素をはじめとするさまざまな環境意識が生活の中に根付いており、環境課題解決に向けての制度や技術、思想など人々のライフスタイルにまで広く浸透しています。パリ協定採択以降、その流れは世界中で加速しており、日本においても市民の生活レベルまで環境意識を根付かせ、町全体でさまざまな取り組みを始め

ていく必要があります。現在、私たちは社会システムやライフスタイルも大きく変化していく中で、積極的かつ状況に応じてフレキシブルに対応していくことが求められています。

公民連携の推進 一持続可能な社会の実現に向けて一

リマテックグループは、行政機関と民間が対等なパートナーとしてお互いの強みを活かした連携を行うことにより、個々の力だけでは解決できないような社会的課題も解決できると考え、公民連携を推進しています。また、行政機関に限らずさまざまなステークホルダーとパートナーシップを形成し、協働で新たなバリューチェーンやサステナブルプラットフォームの構築を行いながら、持続可能な社会の実現に向けて積極的に取り組んでいます。

▶岸和田市と包括連携協定を締結



連携分野	SDGs	主な連携事例
環境	13, 14, 15	脱炭素(ゼロカーボン)社会構築への貢献 環境に関するセミナーやワークショップ等の実施
災害対策	11, 13	環境修復等の協力 災害廃棄物処理の協力
市政のPR	17	リマテックグループの広報ネットワークを活用し、環境に関する市の取り組みを発信し、市政のPRに協力
産業・ 商工振興	8, 9, 10, 11, 12	大阪湾の漁業、大阪産(もん)、岸和田ブランドの認知向上や、 地産地消での漁業推進および交流、地域の活性化を推進
教育・ 文化	4, 5, 10, 11	岸和田市内の子どもたちを対象に、漁業に関する体験を実施 働くことの楽しさ、生き物の命の大切さなどについて学ぶ機会を提供

2021年7月、リマテックグループの拠点がある岸和田市と環境、災害対策など5分野にわたる連携と協働に関する包括連携協定を締結しました。さらに多くの分野において、連携・協働を促進し、地域の活性化を図っていきます。

▶OSAKAゼロカーボンファウンデーションへの参画



2021年7月、大阪府や府内市町村、民間企業や大学等のさまざまな立場の関係者が連携し、脱炭素に貢献する広範な活動を行うことにより、SDGsの推進および環境と調和した取り組みによる持続可能な経済社会の実現に寄与することを目的として設立した「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」(略称: OZCaF(オズカフ))に発起人の一社として参画しています。リマテックグループは、公民連携によるOZCaFの活動を通して、脱炭素(ゼロカーボン)社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。

■OZCaFホームページ <https://ozcaf.jp/>

共感を求める相手へのメッセージ

パートナーシップにより持続可能な脱炭素社会実現を目指す

持続可能な社会の実現には、パートナーシップは必要不可欠です。リマテックグループは、さまざまなステークホルダーが連携することで、お互いが持つ経験や知識、ノウハウなどを最大限に発揮できると考えています。より多くの企業・団体の皆様にOZCaFの趣旨にご賛同いただき、ご参画いただきたいと思います。

脱炭素物流の推進

目標9 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



日本で起きていること

2019年度における日本の二酸化炭素排出量（11億800万トン）のうち、運輸部門からの排出量（2億600万トン）は18.6%を占めています。自動車全体では運輸部門の86.1%（日本全体の16.0%）、うち、貨物自動車は運輸部門の36.8%（日本全体の6.8%）を排出しています。地球温暖化対策計画で定められる2030年度温室効果ガス46%削減達成のため、運輸部門のCO₂排出量の

1/3以上を占める物流分野におけるCO₂削減は極めて重要です。

効率的かつ低炭素な輸送への転換および事業者連携による低炭素な輸送システムの構築に向けた対策を講じることで、CO₂削減を行いつつ持続可能で強靱な物流インフラを構築することとなります。

トレーラによる大量輸送とトレード(交換)輸送

これまで、関西の資源循環業界ではトレーラによる大量輸送が推進されませんでした。排出事業者様は廃棄物保管場所をデッドスペースと位置づけて、スペースを最小限とし少量保管をされてきたからです。少量を小さいトラックで頻りに運ぶことは、輸送時のCO₂もコストも増加傾向にあると考えられます。

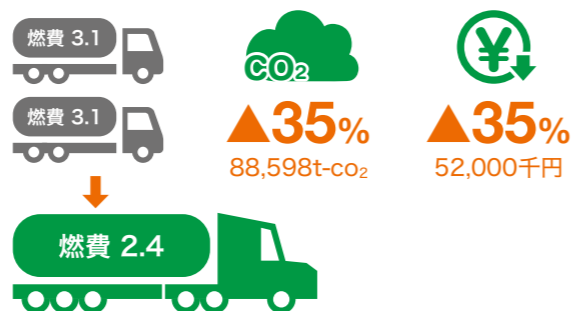
サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量の削減が急務となる中、保管設備の改造等で保管容量を増加させ、トレーラを活用した大量輸送を行うことで「CO₂と輸送コストを同時に削減」することが可能となります。リマテックグループでは、保管設備改造の設計・施工、さらには、受発注の合理化・迅速化メニューをご提案しています。

RTTの社名にある「トレード(交換)」による協力輸送を推進し、CO₂削減や人手不足の物流業界の問題解決に取り組んでいます。輸送効率の悪い仕事(遠方・飛地)をエリア毎の協力会社とトレードし輸送時のCO₂を削減するもので、これを「トランジット(ハブ)」で一元管理するプラットフォームも構築中です。

また、繁忙期・閑散期、必要な車種の変動に合わせた貨物トレーラやドライバーのトレードも行っています。これらを推進するには、アイデアのトレードが必要です。電気・水素トラックの導入とは別に、まずは「オープンイノベーション」で仕組みをつくり、脱炭素物流の推進を図ります。

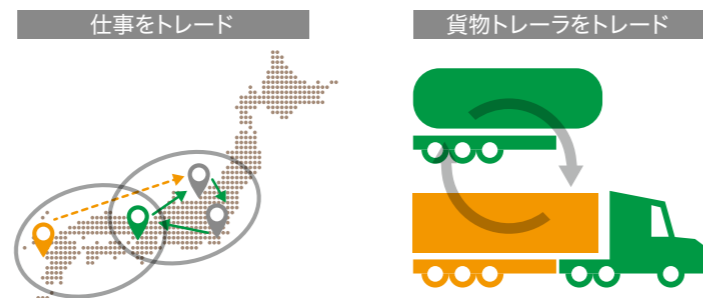
大量輸送でCO₂とコストの削減

◎年間輸送量 30,000トン
◎走行距離 100km/回
◎運賃 5万円/10トン車 6.5万円/20トン車



※CO₂排出量算出：物流分野のCO₂排出量に関するガイドラインVer3.1「燃料法」

トレード輸送



共感を求める相手へのメッセージ

まずは「資源循環の物流プラットフォーム」をつくりましょう

2050年の物流業界においては、MaaSやCASEの実現による交通革命で、移動手段が効率よく横断的につながり利便性をもたらす「人やモノの移動のワンストップサービス」が進み、循環資源も統一されたプラットフォームを利用し運ばれる「単なる一つの商品」になると考えています。物流会社様、まずは「資源循環の物流プラットフォーム」を武器に物流MaaSに参入しませんか。荷主様、トレーラによる大量輸送でスコープ3(カテゴリ4,5,9)をまとめてデザインします。

人々が安心して暮らせるまちづくり

目標11 住み続けられるまちづくりを

11 住み続けられるまちづくりを



日本で起きていること

近年、地球温暖化などの異常気象に伴う大規模な台風や大雨、巨大地震などの自然災害が各地で発生しています。また、産業廃棄物の不法投棄や海難事故による原油流出などの人為災害も発生しています。これらの災害で発生する廃棄物は、甚大な被害を受けた地域における復旧・復興の妨げになるため、早期に撤去し、円滑かつ迅速に処理する必

要があります。

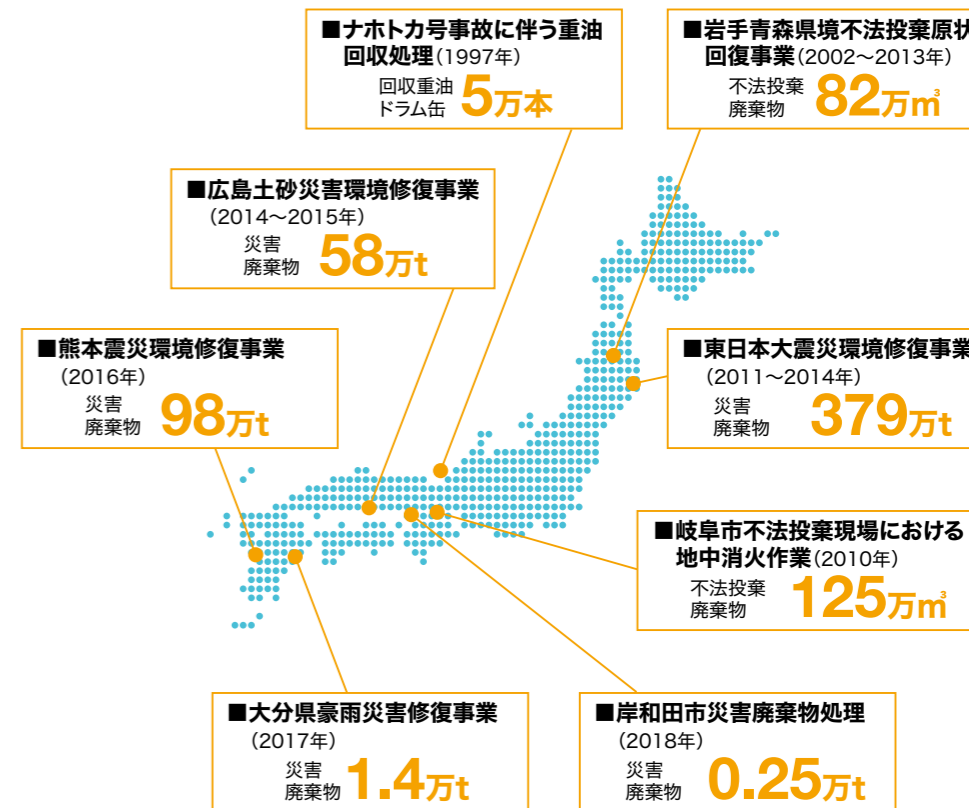
さらに、今後も南海トラフ巨大地震や大雨による大規模な土砂災害や水害なども懸念されるため、一日でも早い生活環境を回復できるように、ステークホルダーと協力し備えておくことが求められています。

環境修復 — 総合力を活かした環境修復スキーム —

リマテックグループは、これまで、日本各地でのさまざまな災害廃棄物処理の経験や実績、ノウハウを積んできました。この経験を基に、廃棄物の運搬・分析・高精度選別・再資源化までの一貫した処理スキームを構築しています。その他、処理困難な廃棄物の処理提案や施工なども行っており、一日でも早い生活環境の回復に向け、グループの総合力で「暮らしと環境」を守る原状回復・修復事業を行っています。

今後、万が一の大規模災害に備えて迅速かつ適正な災害廃棄物の処理と復旧を速やかに行うことを目的に、2012年に大分県臼杵市と、2019年に大阪府岸和田市と災害協定を締結しました。災害が起こらないことに越したことはありませんが、万が一の場合は、地域の生活を一日も早く復旧させられるようグループ全体で取り組みます。

主な実績



共感を求める相手へのメッセージ

災害時における円滑な廃棄物処理を支援

リマテックグループは、「企画力・技術力・現場力」の3つのチカラで環境分野における社会的課題を解決しています。災害廃棄物の処理等に係る総合監理業務の多くの経験と実績、豊富なノウハウ、スピード感および現場力を活かして、今後起こりうる災害やさまざまな課題にもパートナー企業として支援いたします。

地域に根ざした資源循環型社会の構築

目標11 資源循環型社会により持続可能で魅力的なまちづくりを

11 住み続けられるまちづくりを



日本で起きていること

地球規模での環境問題・環境リスクの広がりにより、持続ある成長を続けるためには限りある資源を効率良く利用し、排出された廃棄物を単に処理する社会から廃棄物の発生を極力抑え、発生した廃棄物は環境に負荷を与えないように再利用や再資源化する「資源循環型社会」に変えていく

必要があります。

廃棄物といっても家庭から発生するものや事業活動に伴って発生するもの、さらに自然災害で発生するものや不法投棄されたものなど、さまざまありますが、適正処理かつ廃棄物を資源に変える取り組みが求められています。

資源循環の推進 ～震災廃棄物の処理の経験・実績・ノウハウを活かして～

リマテック東北は、岩手県大船渡市を拠点に、東日本大震災での廃棄物処理の経験や実績、ノウハウを活かしてセメント工場での資源循環に関する請負作業と資源循環コーディネートを主な業務として行っています。

請負業務では、24時間稼働するセメント工場で廃棄物を原燃料(資源)とするための前工程作業を行っています。廃棄物を単純に焼却して埋め立てるのではなくセメント資源化することで、最終処分場の延命や廃棄物使用によるCO₂削減につながり、資源循環型社会の推進に貢献しています。

コーディネート業務では、東北地域の事業所から排出される廃棄物のセメント資源化や有価物へのリサイクル化のご提案を行っています。その他、海中がれきや不法投棄物など、さまざまな廃棄物における再資源化や適正処理をご提案することで、地域に根ざした資源循環の推進に取り組んでいます。

主な実績

■資源循環に関する請負業務

- ◎セメント工場内での前工程作業(抜根材・建設系廃材、焼却灰、廃プラスチック類、災害廃棄物など)
- ◎海中がれき、不法投棄廃棄物などの選別作業
- ◎廃棄物の収集運搬(岩手・宮城・福島)

■資源循環コーディネート業務

- ◎セメント資源化提案
- ◎塩ビ廃棄物の有価物化提案
- ◎サイディング廃棄物のリサイクル提案
- ◎災害廃棄物・不法投棄廃棄物の再資源化・適正処理提案



塩ビ廃棄物

サイディング廃棄物

不法投棄廃棄物

共感を求める相手へのメッセージ

資源循環の取り組みを支援します

「何でもやる」をモットーにお客様のお困りごとを解決してきました。現在はセメント工場内での業務が主ではありますが、業務の幅を増やし、柔軟に対応できる体制としています。持続可能な社会の構築に向けて資源循環を推進し、復興後の魅力的なまちづくりの一翼を担えるように取り組んでいきます。

持続可能なまちづくりを支援

目標11 持続可能なまちづくりの実現に向けて経済・社会・環境の統合的取り組みを支援

11 住み続けられるまちづくりを



自治体で起きていること

■自治体を取り巻く課題

- 人口減少、超高齢化の進展
- 環境制約への対応
- 経済規模縮小による収支の悪化

■地方創生に向けたSDGsの推進

- 将来のビジョンづくり
- 関係者(ステークホルダー)との連携
- 体制づくり
- 情報発信と成果の共有
- 各種計画への反映
- ローカル指標の設定

未来レシビ ―自治体のデジタル化を推進し、効果予測を可視化し、戦略的な政策を支援―

エコサステナ™・システム
未来レシビ

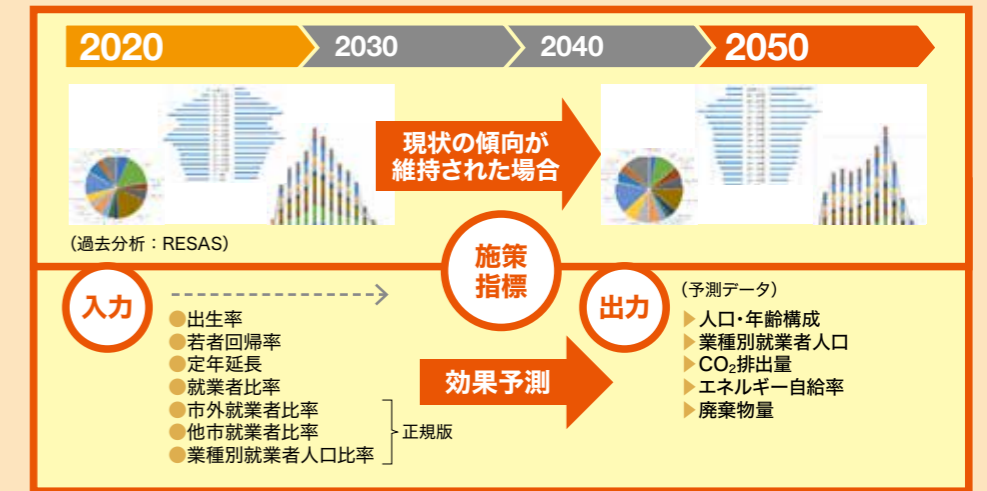


自治体の情報から

人口推移の傾向から2050年の状況を把握し、2050年に目指す「まちづくり」の実現に向けて、施策により期待される出生率や若者回復率などの目標設定を入力することで、2050年の人口・年齢構成の変化やCO₂排出量および業種別就業者人口の変化をそれぞれグラフで可視化することができます。この効果をモニタリングすることにより、経済・社会・環境の三側面の統合的取り組みを支援するツールです。

例えば

- 人口の推移(年齢構成)
- 産業構造
- 年齢別
- 主要産業の就業者人口
- エネルギー、インフラ
- 耕作地、空き家、林野
- 食糧生産量



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS SDGsアクションプラン2020

ビジネスとイノベーション

企業経営へのSDGsの取り組み、ESG投資、科学技術イノベーションなど

強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

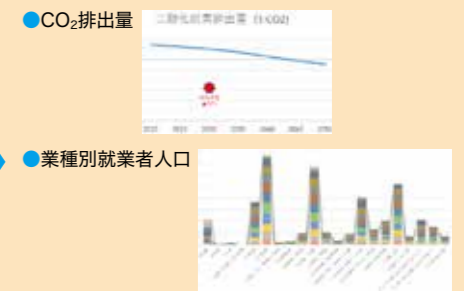
地方創生、グリーンインフラ推進、地域循環共生圏づくりなど

次世代・女性のエンパワーメント

働き方改革、女性の活躍推進、ダイバーシティなど

SDGs推進の効果測定

2050年からバックキャスト思考で政策検討



共感を求める相手へのメッセージ



お問い合わせは→バックキャストテクノロジー総合研究所
www.bct2050.com TEL. 03-5209-2050

3

持続可能なグループを目指して 3つの約束を 重点的に展開

CSR活動

リマテックグループは、安全第一・快適な職場環境を基本理念とし、従業員が安全・安心・快適に働ける職場環境の形成から無事故・無災害の達成を目指しています。同時に、環境との調和を図りながら、持続可能な社会の構築に貢献し、環境負荷「0」の実現に向け、各拠点で日々、地域に根ざした事業活動を行っています。

これからも幅広いステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切に、より良い信頼関係を構築し、各拠点から共生の輪が広がっていくよう、グループの総力をあげて取り組んでいきます。

脱炭素への取り組み

- SBT認定
- 再エネ100宣言
- エコ・ファースト企業認定
- 再生可能エネルギー
- ISO14001:2015

従業員とともに

- 安全衛生活動
- 健康づくり
- 働き方改革

地域社会に貢献

- 自然との調和
- 地域とともに

脱炭素への取り組み



SBT認定

～温室効果ガス排出量を「見える化」し削減を目指す～



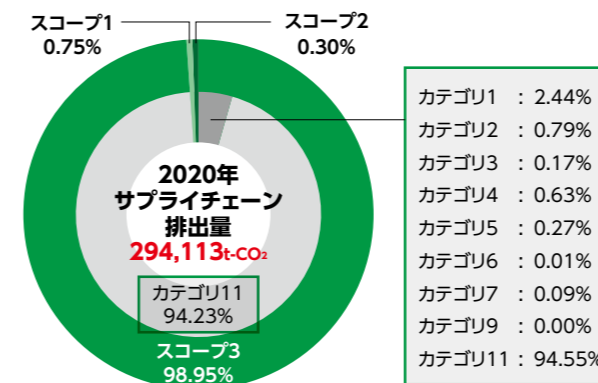
2020年4月、国際的なイニシアティブである「SBT(science Based Targets)イニシアティブ」は、中小企業でも参加しやすくなるように、中小企業向けに新たなSBT認定の申請ルートを開始しました。この

認定ルートは目標設定基準が選択できるため、リマテックグループでは「Well-below 2°C(年率2.5%以上削減)」にて目標設定の見直しを行い、2020年9月にSBTの認定を取得しました。

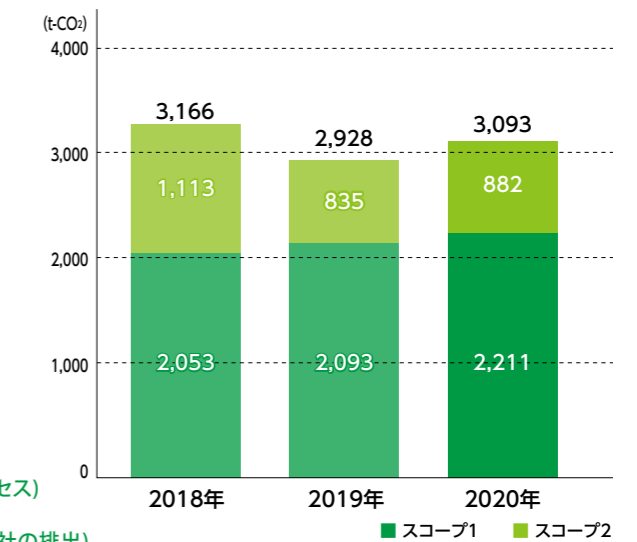
【リマテックグループの削減目標の内容】

- ◆ スコープ1およびスコープ2の温室効果ガス排出量を2030年までに2018年度比で30%削減
- ◆ スコープ3の温室効果ガス排出量の把握と削減に取り組むことを約束

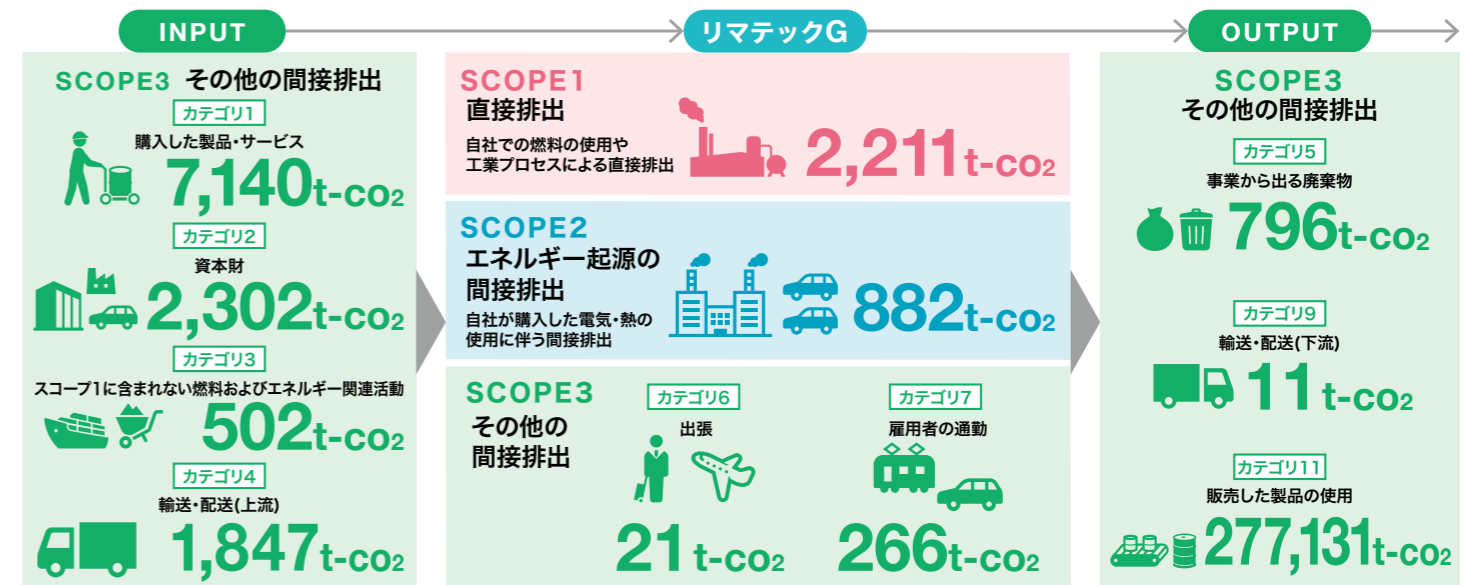
2020年度 スコープにおけるCO₂排出量の割合



事業活動におけるCO₂排出量(スコープ1,2)の推移



スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
 スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
 スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)



※2020年度より下記データベースを用いて算出しています。
 ◎ガイドライン：サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出算定に関する基本ガイドライン(Ver.2.3)2017年12月環境省・経済産業省
 ◎CO₂排出原単位データベース：サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.1)および「LCIデータベースIDEAv2.3(サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用)」

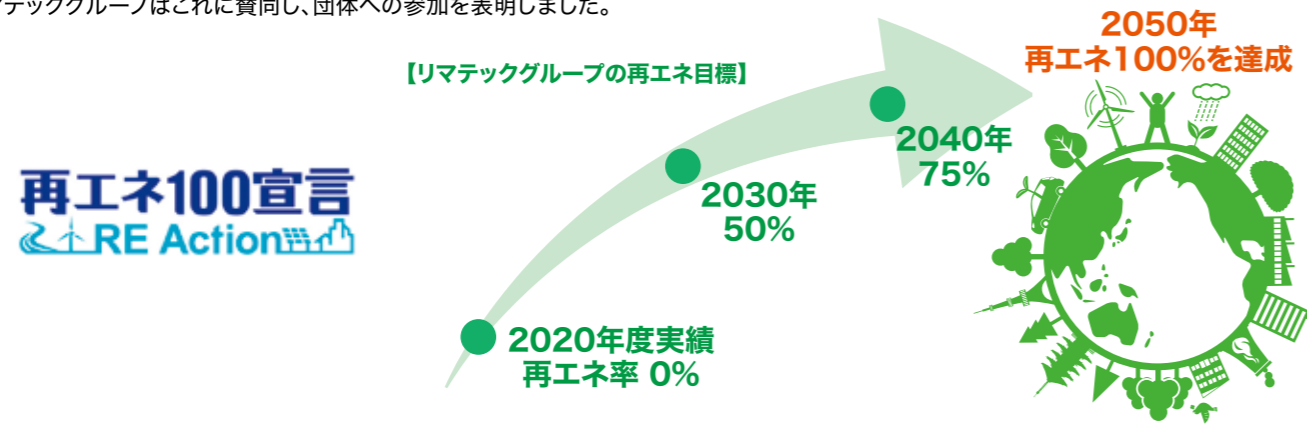


再エネ100宣言

～電力の再エネ化100%を表明～

2019年10月、中小企業などの再生可能エネルギー導入拡大に向けた新しい枠組みとして、「再エネ100宣言 RE Action」が発足しました。リマテックグループはこれに賛同し、団体への参加を表明しました。

2050年までに再エネ100%を目指し、全社を挙げて再生可能エネルギーのさらなる活用の推進を図ります。



エコ・ファースト企業認定

～環境先進企業として環境保全に貢献～



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

リマテックグループは2008年11月に環境保全への取り組みを約束し、業界初、環境大臣より「エコ・ファースト企業」に認定されました。2019年6月には2030年度に向けた中期目標および2050年度に向けた長期目標に基づいて「エコ・ファーストの約束」の更新を行い、「エコ・

ファースト企業」に再認定されました。従来から大きく変更した点は、事業を通じて持続可能な脱炭素社会への貢献を目指し具体化したことです。再生可能エネルギー事業を、今後さらに強化・拡大しながら、環境先進企業としての取り組みを進めてまいります。



- 約束1 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します
- 約束2 地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します
- 約束3 持続可能な脱炭素社会への貢献を目指します
- 約束4 社員への環境教育・啓発活動を積極的に実施します

2020年度エコ・ファーストの実績

約束手順	約束内容	項目	目標	2020年度実績
1	循環型社会形成の推進	産業廃棄物のリサイクル率	97%を維持	98.9%
		再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究	—	廃棄物再資源化に関する研究開発活動の実施
2	地球温暖化防止の推進	再生燃料(RF燃料)出荷量	2024年度まで現状より5%アップ	95,836t
		CO ₂ 排出量削減への取り組み	2030年20%削減、2050年49%削減(2017年度比)	スコアP1: 2,211t-CO ₂ スコアP2: 882t-CO ₂
3	持続可能な脱炭素社会への貢献	太陽光発電施設の効率的な発電量の維持	—	発電量 9,016千kWh (4拠点合算値)
4	環境教育の実施	独自の環境教育の実施	—	当社独自の社内環境教育を実施

※「エコ・ファースト制度」：企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束し、その企業が、環境の分野において「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業(業界における環境先進企業)であることを、環境大臣が認定する制度。認定を受けた企業は、エコ・ファースト・マークを使用することができる。エコ・ファースト制度について(環境省ホームページ) <http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/index.html>



再生可能エネルギー

～電気使用量を上回る再エネ発電を実現～

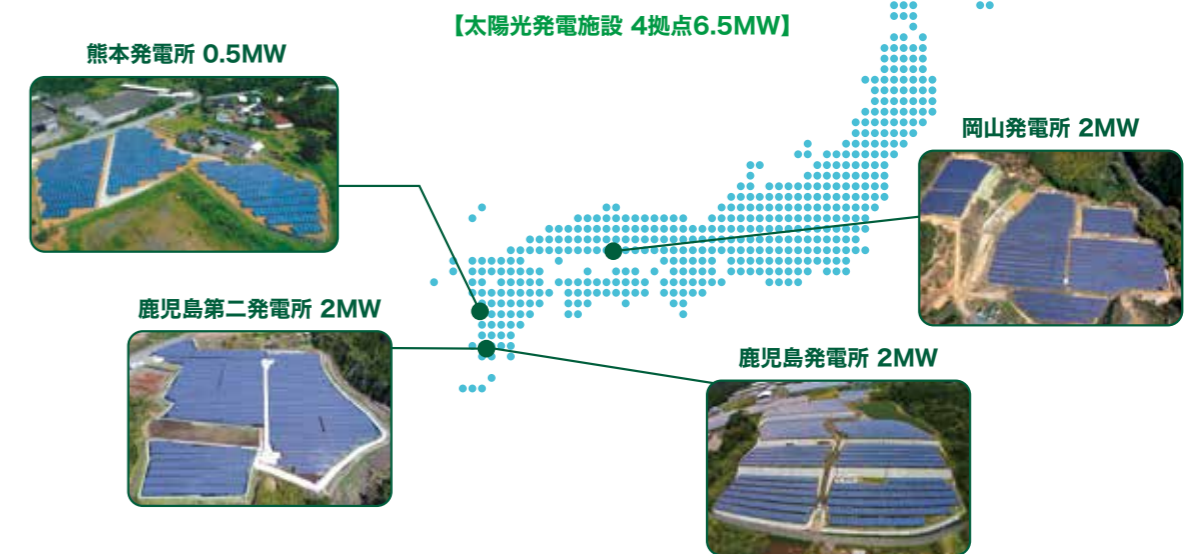
リマテックグループは、脱炭素社会の実現および再生可能エネルギー100%を目指し、国内4か所に総発電出力6.5MWの太陽光発電施設を設置しています。少しでも安定的に発電できるよう、ストリング監視シ

ステムのデータ活用や設備点検などにより安定的な発電量を維持し、再生可能エネルギーの普及・拡充の取り組みを通じて、さらに社会に貢献していきます。

2020年度実績



※1 太陽光発電のCO₂削減量については、太陽光発電協会「表示ガイドライン(平成30年度)」を参考に算出



ISO14001:2015

～継続的に環境への負荷を低減させる仕組みを構築～

リマテックグループでは、グループ各社がそれぞれ独立したマネジメントシステムを構築し、運用しています。ISO14001とは、環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格で、企業活動、製品およびサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を継続的に実施す

る仕組みです。産業廃棄物を扱う企業として、環境マネジメントシステム(EMS)を運営することこそが社会的責任であり、更新し続けることが、環境影響を最小限にとどめる為の努力の評価だと捉え、今後も環境に対する配慮を継続していきます。





安全衛生活動

～産業廃棄物処理業の表彰～

一般社団法人大分県産業資源循環協会の「優良従事者表彰」と、公益社団法人全国産業資源循環連合会の「会長表彰」を受賞しました。「優良従事者表彰」は、リマテック九州工場長の西元が、産業廃棄物処理事業の長年に渡る功績が認められ受賞しました。「会長表彰」は、日々

の産業廃棄物収集運搬業および処理事業における活動が認められ、地区表彰事業所選ばれました。今回の名誉ある受賞に恥じないよう、「安全第一」をモットーに日々の事業活動を邁進していくことを決意しました。



～飲酒運転根絶功労者大分県知事表彰～

令和2年大分県交通安全県民大会において、リマテック九州運輸係の岸蔭が「飲酒運転根絶功労者大分県知事表彰」を受賞しました。入社から32年間の実績(産業廃棄物収集運搬業務での無事故無違反、飲酒運転防止活動、働き方改革の勤務時間変動制の導入など)を評価してい

ただきました。今後も、飲酒運転根絶に向けた活動に尽力し、社員の安全運転意識の向上と交通弱者の皆様が安全・安心に暮らせる街づくりに向け取り組んでいきます。

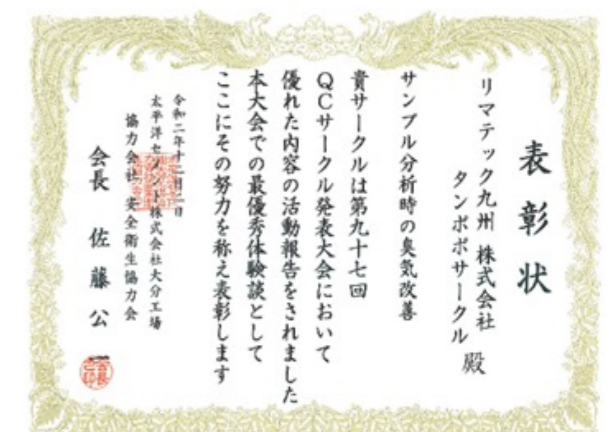


安全衛生活動

～太平洋セメント株式会社大分工場 第97回QCサークル発表大会～

太平洋セメント株式会社大分工場安全衛生協力会による第97回QCサークル発表大会が開催され、リマテック九州はトップ賞を受賞しました。今回の発表テーマは『サンプル分析時の臭気改善』であり、分析時の

臭気軽減対策を評価していただきました。今後もQC活動を通じて、職場の課題解決に取り組んでいきます。



～フルハーネス型安全帯の特別教育～

建設業労働災害防止協会大分県支部の協力のもと、労働安全衛生規則の一部改正に伴う「フルハーネス型安全帯」導入のための特別教育を実施しました。役員を含め、全社員を対象にした学座では、フルハーネ

スの構造や高所作業での順守法令等について学び、実技訓練では作業前の点検方法や実際の使用方法、胴ベルト型とフルハーネス型の安全性の違いを体感しました。



安全衛生活動

～消火訓練の実施～

リマテック東北は、抜根(木の根)などの木くずを破碎する作業を行っており、このような燃えやすい素材を扱っていることから、大規模火災防止対策として年1回の火災訓練と、火災発生時に冷静かつ迅速に消火活動ができるよう消火訓練も同時に実施しています。今年度入社した社員には、火災発生時の行動手順や散水車を使用した放水手順について指導し、一人ひとりが緊急時に対応できるよう防災活動に取り組んでいます。



～外部教育によるスキルアップ～

安全活動の一環として外部講師をお招きし、安全教育を年4回実施しました。作業では大型重機を使用しており、同じ作業の繰り返しによる「慣れ」からヒューマンエラーが発生しやすいため、これまでの災害事例から想定される危険予知についてご指導いただきました。また、点検不備による事故・物損等を防ぐための実地訓練も行い、安全に対する視野を広げるなどの社員のスキルアップにつなげています。



～津波避難訓練に参加～

年に一度、太平洋セメント株式会社大船渡工場と協力会社合同で実施される津波避難訓練に参加しています。また、各現場の作業員が無線機を利用した独自の地震訓練も実施しており、これからも3.11東日本大震災を忘れることなく、社員全員が安全に避難行動ができるよう災害に備えて取り組んでいます。



～「新型コロナワクチン接種日の特別休暇」を導入～

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策の一環として「新型コロナワクチン接種時の特別休暇」を導入しました。この制度は、勤務時間内に新型コロナワクチンの接種を希望する社員が安心して接種を受けやすい職場環境づくりを目的としています。これからも社員の健康と安全な職場環境を目指し、新型コロナウイルス収束に向けた取り組みを行ってまいります。



出典：「新型コロナワクチンポスター」(厚生労働省)
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000773199.pdf>)

安全衛生活動

～表彰制度による安全意識の向上～

無事故の乗務員に対し、年2回報奨金を支給しています。すべてにおいて「安全を最優先」させ、自分の命を守り、お客様の荷物を無事に届ける。その功績を称え、報奨金を支給し安全意識を向上させています。

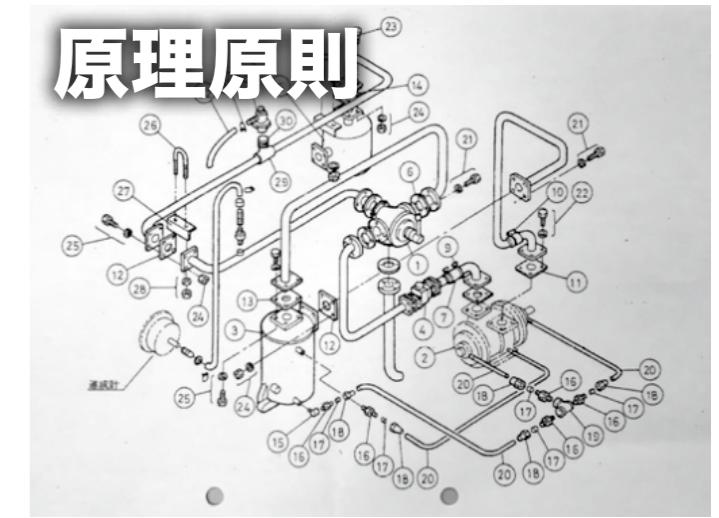
管理者は、運転手の気持ちになり、目的・目標を明確にして理解させた上で安全衛生活動を行っています。

「形だけの無駄な活動はしない」RTTの鉄則です。



～外部教育によるスキルアップ～

特殊車両を、安全に正常な状態で稼働させるために「外部のスペシャリスト」による勉強会を行っています。今回は、特殊車両の装置(真空ポンプ)の構造や仕組みを、現物を手に取りながら学びました。装置はどのような原理原則で動いているかを理解することで、無理な操作による故障の発生防止や、異音などの発生原因を理解した感性・感覚で行う点検によって不具合の早期発見につながります。これからも「なんとなく知っている」ことを外部の手助けで正確な知識とし、経験を重ねた個々の知恵(新しいアイデア)を集約し、技術力を向上させてまいります。



～事故を起こさない「気持ち」を育てる～

RTTの事故発生件数は、昨年と比較し▲45%となりました。事故の多くの原因は「気持ち」にあると考えています。

技術力不足は、知識がないのではなく「コツ」を知らない、責任感不足は、「自信のなさ」から人のせいにするからです。

添乗指導では、やってみせ、コツを聞かせて、させてみることで、手順書

では表現できない感覚を学ばせています。添乗指導員は、運転や作業行動を事故防止の観点だけでなく、より良い行動を言葉で伝え自覚させ、その行動をさらに発揮できる「輝く場」をつくり自信を持たせています。



健康づくり

～第55回全日本卓球選手権県予選～

2021年5月8日に第55回全日本卓球選手権県予選(社会人の部)が開催され、リマテック九州から営業課の佐藤直樹、製造課の佐藤剛と宮崎伸也が出場し、シングルス優勝とダブルス優勝の好成績を残しました。これからも全国大会での上位入賞に向けて頑張る3選手を応援します!!



～健康アプリ「おおいた歩得」の活用～

多くの社員が働き盛り世代の健康づくりのため、大分県が主催する「おおいた歩得」に取り組んでいます。健康アプリを活用して、職場単位で取り組む「おおいた歩得」職場対抗戦など、各種行事に参加し、日々のウォーキングの歩数や県内イベント、温泉施設等で獲得する健康ポイントを集めて、楽しみながら健康増進につなげています。大分県主催の職場対抗戦では、真面目にポイント獲得に取り組み、大分県下192チームが参加する中で見事9位入賞を果たしました!



～ストレスチェック制度～

2015年の労働安全衛生法改正より、全社員を対象に毎年ストレスチェックを実施しています。大分労働衛生管理センターによる前年度と比較や同業種産業との対比等の解析をすることで、支援や就労に活かしています。例年同様、今年も全国平均と比べて、身体的・精神的ストレスは低い結果になりました。今後も、社員一人ひとりの働きやすい職場環境づくりに活かしていきます。



～健康チャレンジ～

従業員の健康づくりへの取り組みが評価され、大分県より「令和3年度健康経営事業所」に認定されました。また、大分県中部保健所と臼杵市保険健康課が主催する「事業所ぐるみで健康チャレンジ事業」にも参加し、「吉四六さん賞」を受賞することができました。これからも、社員一人ひとりの健康増進と、働きやすい職場環境の構築に向け取り組んでまいります。



働き方改革

～多能工化～

リマテック九州では、働き方改革の一環として、一人の働き手が複数の技術・技能を身につけて、状況に応じて複数の業務に対応できるようにする「多能工化」を進めてきました。それにより、個人スキルアップと多

様なシフト形態に対応できる人材育成につながり、特定の作業員しかできなかった業務を複数人がカバーできるようになったことで、以前より、休日を取りやすい環境になりました。



～テレワーク等による出社率の削減～

リマテックR&Dでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてテレワークを推進しています。緊急事態宣言等の発令状況や蔓延状況により、テレワークに加えて感染リスク低減を目的としたオンラインシステムの活用や時差出勤などの対応を行っています。2020年度は、他事業所への出張・出社を含め出社率は約45%となり、55%の出社率削減となりました。



～ワークライフバランスの実現～

リマテックR&Dでは、社員の仕事と家庭の両立を支援するために、法律に則った育児・看護・介護規程、在宅勤務規程を制定し、育児や介護のための休業や、在宅勤務などが取得できるよう配慮しています。2020年度には1名の社員が育児休暇から復職し、就業しながら子育ての時間が確保できるように短時間勤務や在宅勤務制度を導入しています。





自然との調和

～共生の森の草刈り～

11月初旬、早朝7時から社員10名で毎年恒例の「臼杵市から管理を委託されている共生の森」の草刈りを行いました。13年目の草刈りは、小雨が降る中での作業でしたが、約1時間かけて生い茂った雑草や樹木

の剪定を行いました。大きく成長した草木との格闘は大変でしたが、綺麗に刈られた共生の森は、とても嬉しそうでした。この美しい景観をこれからも維持し伝えていきます。



～春の国道花壇の花植～

6月15日、社員一同で国道502号線沿いの花壇に黄色とオレンジのマリーゴールド、メランポジウム、ペゴニアを植栽しました。また、今回は新たにナスとトマトにも挑戦しました。今年もコロナ禍で地域の「生き生き部会」の皆様の参加は見送られましたが、是非、国道502号線を利用する際はご覧ください。



リマテック九州は、創業以来「地域との共存共栄」を理念のもとに、地域の催し・ボランティア活動・環境負荷「0」の社会づくりなどの活動を通して、地域の文化・伝統を守り、生物多様性保全と自然との調和を図れる企業を目指して取り組んできました。これからも、地域・社会・自然との調和型企業として活動を続けてまいります。



地域とともに

～カボスの収穫～

リマテック九州では、夏の暑さ残る9月下旬、敷地内に植栽されたカボスの収穫を行いました。今年は豊作の年になり、カボスの青玉が多く実りました。農業や防虫剤を一切与えていないため、多少、形に愛嬌はありますが、日頃、お世話になっている方々へ心ばかりですが送らせていただきました。来年も豊作の年になるよう願っております。



～地域清掃活動～

リマテック東北では、大船渡市が毎年実施している市内一斉清掃に合わせ、地域美化活動の一環として地域の清掃活動を行っています。2020年度の春の実施は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため自粛となりましたが、例年通り6月に11名、10月は14名が工場近くの県道沿いの清掃活動を行いました。また、環境活動として作業場内から河川へ濁水等が流さないように、定期的に側溝清掃や場内の草刈りなどを実施しています。



～ベルマークの寄付～

リマテック九州では、日々収集しているベルマークを、臼杵市野津町にある野津子ども園に寄付してきました。寄付したベルマークは、園内の遊具や園同士の交流などに活用されます。コロナ禍で、保育の現場は大変な状況ですが、少しでも子供達が笑顔になれる環境が早く戻ってきますように、今後も協力していきます。



～ハッピーアースデイ大阪2021 特別協賛～

リマテックR&Dでは、2021年3月27日、28日に大阪府八尾市にて開催された「ハッピーアースデイ大阪2021」に特別協賛しました。

「ハッピーアースデイ大阪」は、学生が主体となって活動しており、誰もが社会や地球に負荷のかからない生活をし、日々の暮らしの中で幸せを感じながら、地球と共に生きていくことを目指しています。当日のイベントでは環境や自然、リサイクル、防災などの体験型ワークショップや「気候変動」をテーマに音声SNSを活用したフリートークなどが行われました。

ハッピーアースデイ大阪 <http://www.happy-earthday-osaka.jp/>



DATA RF事業における環境パフォーマンスデータ

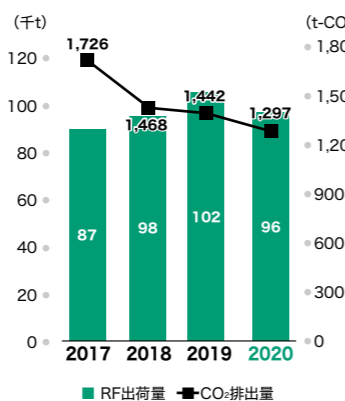
対象/リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、RTT株式会社 集計期間/2020年4月~2021年3月

INPUT RF PRODUCTION OUTPUT

資源	※省エネ法適用外
ガソリン(kL)	22
プロパン(m³)	283
軽油(kL)	79
A重油(kL)	80
灯油(kL)	0
電力(kWh)	2,384,207
工業用水(m³)	8,171
アセチレン(t)	0

	レックスRF	リマテック九州
ガソリン(kL)	2	20
プロパン(m³)	95	188
軽油(kL)	31	48
A重油(kL)	0	80
灯油(kL)	0	0
電力(kWh)	804,699	1,579,508
工業用水(m³)	8,171	0
アセチレン(t)	0	0

再資源化とCO2排出量の推移



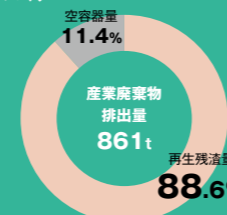
CO2排出量 (t-CO2) 1,297

再資源化物出荷量(t)	95,836
RF出荷量(t)	95,836
低級燃料出荷量(t)	0



産業廃棄物排出量 (t) 861

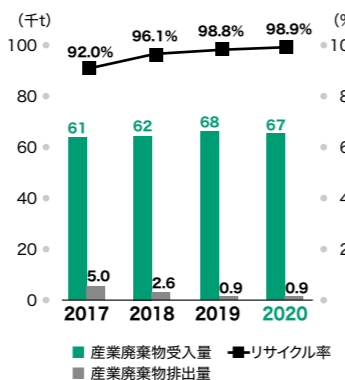
再生残渣量	763
空容器量	98
廃プラスチック類	93
金属くず	0
木くず	3
紙くず	0
がれき類	0
繊維くず	0
ガラスくず	2



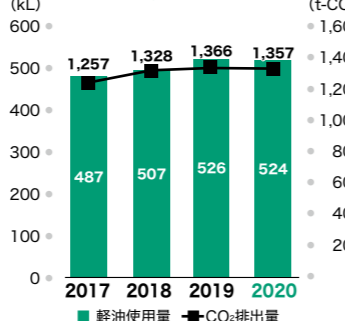
有価金属くず (t) 1,148

内訳	レックスRF	リマテック九州
CO2排出量(t-CO2)	366	931
再資源化物出荷量(t)	40,393	55,443
RF出荷量	40,393	55,443
低級燃料出荷量	0	0
産業廃棄物排出量(t)	433	428
再生残渣量	420	343
空容器量	13	85
廃プラスチック類	10	83
金属くず	0	0
木くず	3	0
紙くず	0	0
がれき類	0	0
繊維くず	0	0
ガラスくず	0	2
有価金属くず(t)	732	416

廃棄物とリサイクル率の推移



収集運搬における軽油使用量とCO2排出量の推移



リサイクル率 98.9%

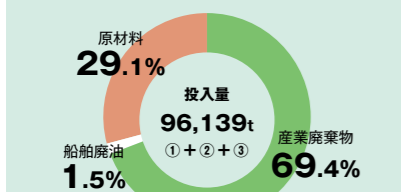
レックスRF	98.7
リマテック九州	99.0

収集運搬業務

CO2排出量 (t-CO2) 1,357

リマテック九州	429
RTT大阪支社	509
RTT九州支社	419

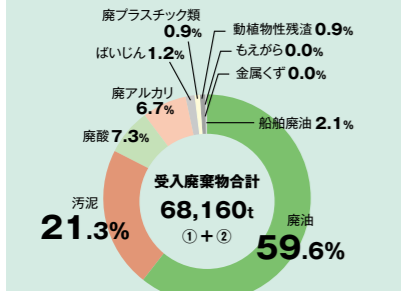
RF製造原料



① 産業廃棄物 (t) 66,736

廃油	40,606
汚泥	14,513
廃酸	4,999
廃アルカリ	4,564
ばいじん	808
廃プラスチック類	622
動植物性残渣	600
もえがら	24
金属くず	0

② 船舶廃油 (t) 1,424



③ 原材料 (t) 27,979

再生燃料	14,422
C重油	13,557

収集運搬業務

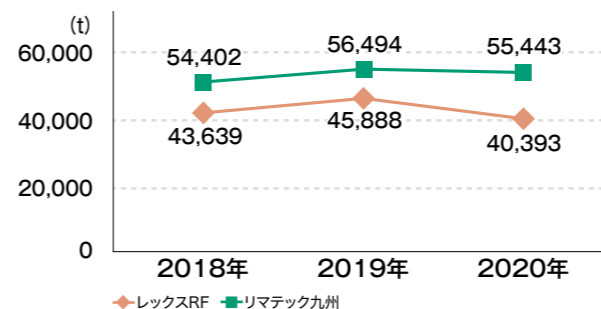
軽油(kL)	524
ガソリン(kL)	2.1

	リマテック九州	RTT大阪支社	RTT九州支社
軽油使用量(kL)	166.1	196.2	161.9
ガソリン使用量(kL)	0.0	1.4	0.7

DATA リマテックグループデータ実績《2018年~2020年度》

RF出荷量

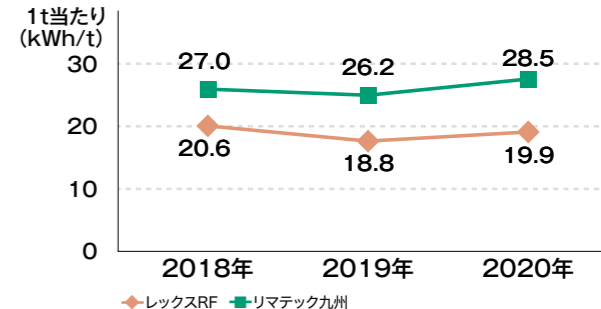
対象/株式会社レックスRF、リマテック九州株式会社



RF電力消費量

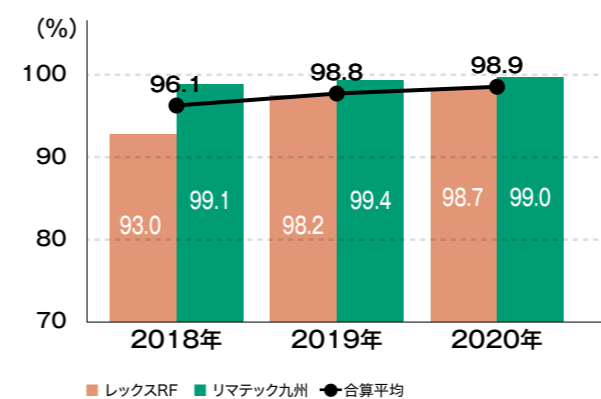
※RF出荷量に対する電力消費量

対象/株式会社レックスRF、リマテック九州株式会社



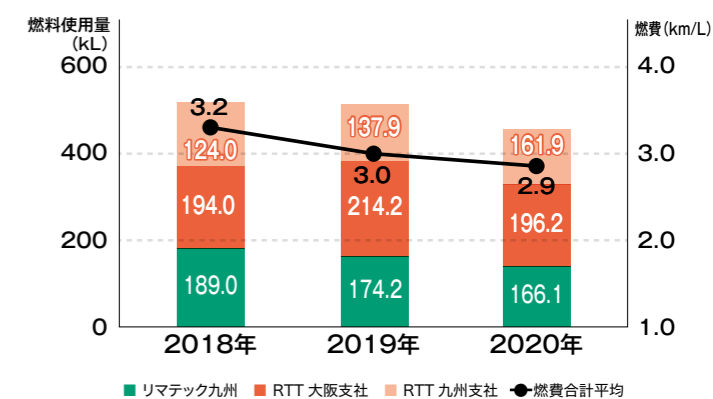
リサイクル率

対象/株式会社レックスRF、リマテック九州株式会社



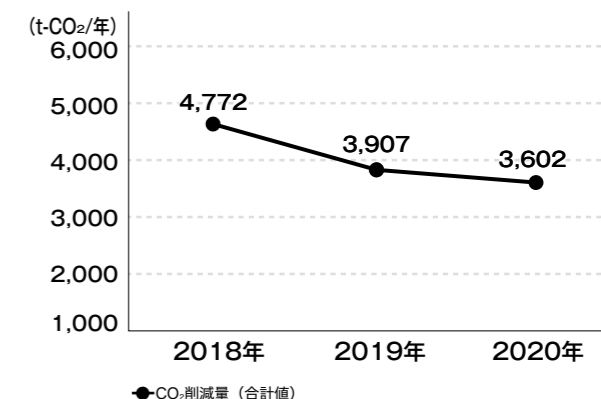
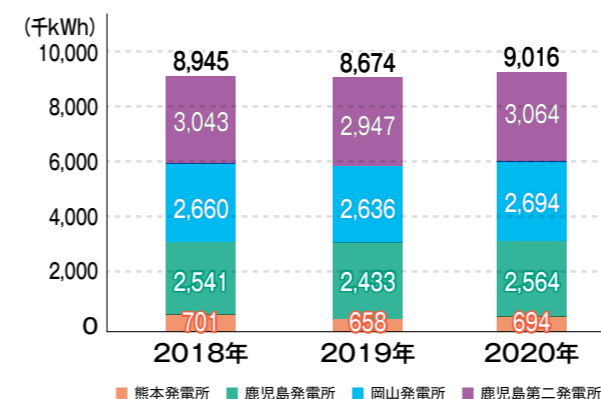
燃料使用量と燃費

対象/リマテック九州株式会社、RTT株式会社



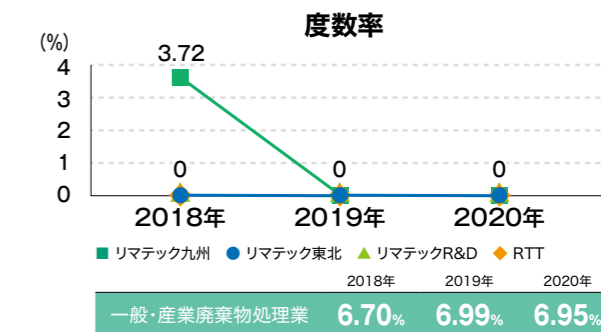
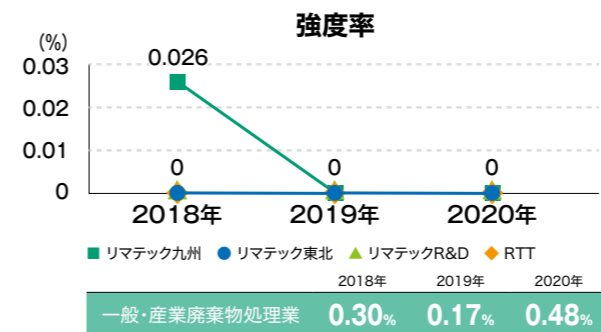
太陽光発電量&CO2削減量

対象/熊本発電所、鹿児島発電所、岡山発電所、鹿児島第二発電所



強度率&度数率

対象/リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社、RTT株式会社 ※製造従事者 集計期間/各年1~12月



出典: 厚生労働省の労働災害動向調査より
 ※強度率/延労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表す。 ※度数率/延労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、労働災害の頻度を表す。

DATA 環境・安全衛生活動報告データ《2020年度実績》(重点取り組みを一部抜粋)

リマテック九州

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	共存共栄	騒音・臭気等のクレーム：0件	■定期的な環境パトロールによるチェック ■夜間作業時の相互注意		騒音・臭気等のクレーム：0件
電力削減	RF燃料1tあたりの電力消費量の削減：25.2kWh/t	■攪拌機等の設備の間欠運転 ■照明のON・OFFなど小まめな電力削減		28.5 kWh/t	×
水質・土壌汚染防止	雨水処理設備からの放流基準オーバー：0件 (pH 5.8以上～8.6以下、透視度 500mm以上)	■雨水処理設備の日常的な管理 ■放流水(雨水)の日々の監視 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いのサンプリングから水質検査		雨水処理設備からの放流基準オーバー：0件	○
	漏洩事故：0件	■日々の場内点検 ■台風接近時などに養生の徹底 ■収集運搬時の積載および運搬途中の確認 ■定期的な車両整備		漏洩事故：0件	○
再資源化による天然資源の枯渇抑制	出荷量：56,000t	■処理計画に基づく計画的な生産 ■定期的な現場パトロール ■安全教育 ■処理設備の定期的なメンテナンス		出荷量：55,443t	×
安全衛生活動	項目	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害：0件	■社長パトロールを強化し、作業標準書に基づいた動作チェックを実施 ■客先構内作業時に管理者層パトロールを実施 ■毎月および設備導入前後のリスクアセスメントの実施 ■計画的な安全教育の実施 ■リスク排除に向けた設備改善 ■「夏期無事故無災害92日運動」を展開	事故・災害：2件	×
	衛生	健康個人目標の達成：85%以上	■健康個人目標達成状況の進捗管理 ■産業医・保健師による面談および指導 ■ストレスチェックの実施 ■「事業所ぐるみで健康チャレンジ事業」に参加	健康個人目標：88.1%	○
	防災	異常反応時の防災訓練：1回/年	■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施 ■安否確認メール配信システムの運用	1回/年 実施	○
	交通	交通事故：0件	■課内での事故事例検討 ■「自動車事故対策指導」の受講 ■計画に基づいたドライバーチェックの実施 ■法定速度遵守および車間距離確保の指導・励行 ■全国・大分県交通安全運動に参加(期間中、街頭指導8回実施) ■豊の国セーフティーチャレンジ2020に参加	交通事故：1件	×

RTT

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	地球温暖化の防止(燃料使用量の削減)	燃料使用量の削減 目標：燃費 3.60km/L(大阪支社) 2.64km/L(九州支社)	添乗指導により、ムリ、ムダ、ムラ、ムボウを自覚・納得させ、排除する(運転経験の少ない新人の採用および車両の老朽化により目標を現状維持)		大阪支社：燃費 3.11km/L 九州支社：燃費 2.35km/L
安全衛生活動	項目	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	交通	人身事故：0件	添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる	人身事故：0件	○

リマテックR&D

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	電力削減	前年度実績維持(±1%以内) 2019年度実績：79,266kWh/年 2020年度目標：78,473～80,059kWh/年	■未使用場所(室内)の消灯徹底 ■使用電力確認(使用量過多がある場合は要因分析し対策検討)		年間使用量：78,494kWh(0.97%削減) (月平均6,541kWh)
安全衛生活動	項目	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害：0件	■KY活動・定期パトロールの実施 ■法令・規程の順守 ■リスクアセスメントの実施およびハザードマップの作成・更新の周知	0件	○
衛生	■ストレスチェック実施：1回/年 ■健康診断受診率：100% ■個人衛生目標達成：80%以上	■ストレスチェックおよびフォローの実施 ■定期健康診断の受診 ■個人ごとの衛生目標の立案・実施		ストレスチェック実施：1回(12月) 健康診断受診率：100% 個人衛生目標達成：0% (立案未実施のため)	×

リマテック東北

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	地域環境保全・地域貢献	工場周辺美化活動への参加：2回/年以上	工場周辺道路や河川堤防等でのゴミ拾い		2回/年 実施
温室効果ガス排出量の削減	■電力削減：前年度比1%削減 ■重機燃料原単位の削減：前年同月比2%削減	■照明や電化製品の節電 ■作業効率化や重機使用燃料の削減策の検討・実施		電力消費量前年度比：6%増 重機燃料原単位：月平均23%減	×
請負業務での環境保全	■重機の油漏洩による河川流出防止：苦情 0件 ■発塵防止：苦情 0件	■重機始業前点検および油漏洩処置道具点検の実施 ■油漏洩時対応訓練の実施 ■散水車による場内散水作業で発塵防止		苦情 0件	○
セメント再資源化への貢献	請負業務の全量適正前処理 受入拒否：0件	■重機や機械設備トラブルの防止・対応 ■作業停止ロスの低減		受入拒否：0件	○
安全衛生活動	項目	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	■完全無災害 ■過失による物損事故：0件 ■TCC安全7原則の厳守	■ルール遵守と指導の徹底 ■職場リスクの低減活動実施 ■安全スキルの向上と推進	不休・休業災害：0件 物損事故：0件 ルール違反による災害：0件	○
	衛生	■個人健康目標達成率：80%以上 ■定期・特定健康診断受診率：100% ■安全衛生保護員の点検実施率：100%	■個人健康目標の設定、月毎の進捗管理 ■定期・特定健康診断の受診 ■インフルエンザ等流行性疾患の予防対策の励行 ■安全衛生保護員の点検実施 ■安全衛生教育の実施	個人健康目標達成率：96% 受診率：100% 点検実施率：100%	○
	防災	■廃棄物置場の火災発生：0件	■廃棄物置場の温度管理 ■火災時対応訓練の実施	火災発生：0件	○

DATA 3カ年目標《2021～2023年度》(重点取り組みを一部抜粋)

リマテック九州

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度
環境管理活動	電力削減(RF燃料1tあたりの電力消費量)	28.0kWh/t	27.9kWh/t	27.8kWh/t	■低電力消費設備への変更を検討 ■月々の電力消費の目標値をクリアするため調整と検校を実施 ■日々、攪拌機等の間欠運転等に努め電力を削減 ■毎月の生産計画を達成し、1tあたりの生産量を落とさず維持		
	RF燃料の安定操業	55,000t/年	56,000t/年	57,000t/年	■定期的な設備点検と修繕による生産設備のフル操業 ■タンク内性状(pH・圧力・温度等)を徹底監視し異常反応を抑制 ■科学的解析手法等の導入で廃棄物の搬入安定システムの構築 ■RF生産ライン等の設備自動化の模索 ■QC活動・社内外教育・現場OJTを通じた、将来を担える人材の育成強化 ■処理困難廃棄物への対応力強化に向けた技術力の強化 ■改善提案やQC活動等を活用した設備のハード対策実施 ■事故・トラブルになる前に指導やメンテナンスを行いフル生産を達成		
	放流水の水質	pH:5.8以上～8.6以下、透視度：500mm以上			■放流水(雨水)の日々の監視 ■雨水処理設備の日常的な管理による機能の維持 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いのサンプリングから水質検査		
安全衛生活動	項目	目標値			実施項目の計画		
	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	
	安全	事故・災害：0件			■運営方針「しない・させない」に「ゆるさない」を追記し、「安全第一」の徹底 ■三現主義(現場・現物・現実)の実践で職場の不安全状態を根絶 ■6S(整理・整頓・清掃・清潔・躰・作法)の徹底による安全に強い人づくり ■行動する前にリスク等はないか、考えて動く「考動」の徹底 ■最も事故の多い7～9月に「夏期無事故無災害92日運動」の展開		
	衛生	健康個人目標の達成：90%以上			■健康個人目標達成状況の進捗管理 ■ストレスチェック結果の活用 ■産業医・保健師による面談および指導 ■「事業所ぐるみで健康チャレンジ事業」に参加		
	防災	火災事故：0件 漏洩事故：0件			■混合テストおよびタンク内正常の徹底監視 ■安否確認メール配信システムの運用と一斉訓練 ■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施		
交通	交通事故：0件 違反：0件			■行政機関等による交通安全活動に積極的に参加 ■全国交通安全運動期間中の国道沿いにて安全運転の呼び掛け ■定期的ドライバーチェック活動(運輸係全員および交通事故発生当事者対象) ■ドライビングセミナー等の外部講習を受講 ■豊の国セーフティーチャレンジに参加			

RTT

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度
安全衛生活動	地球温暖化の防止(燃料使用量の削減)	燃費(大阪支社)：3.30 km/L(トラック) 2.50 km/L(トレーラ) 燃費(九州支社)：2.30 km/L(トレーラ)			添乗指導により、ムリ、ムダ、ムラ、ムボウを自覚・納得させ、排除する(運転経験の少ない新人の採用および車両の老朽化により目標は現状維持とする)		
	交通	人身事故：0件			添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる		

リマテックR&D

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度
安全衛生活動	電力削減	前年度実績維持(±1%以内)			■未使用場所(室内)の消灯徹底 ■使用電力確認(使用量過多がある場合は要因分析し対策検討)		
	安全	事故・災害：0件			■KY活動・定期パトロールの実施 ■法令・規程の遵守 ■リスクアセスメントの実施およびハザードマップの作成・更新の周知		
衛生	■ストレスチェック実施：1回/年 ■健康診断受診率：100% ■個人衛生目標達成：80%以上			■ストレスチェックおよびフォローの実施 ■定期健康診断の受診 ■個人ごとの衛生目標の立案・実施			

リマテック東北

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度
環境管理活動	地域環境保全・地域貢献	工場周辺美化活動への参加：2回/年以上			■工場周辺道路の美化活動(ゴミ拾い)参加		
	電力削減	前年度比1%削減	前年度実績維持(±1%以内)		■照明や電化製品の節電 ■事務所エアコンの設定温度や運転時間の記録		
	請負業務での環境保全	■油漏えいの河川流出防止 委託先からの苦情：0件 ■発塵による苦情：0件 ■作業ごとの重機燃料原単位の削減 前年同月比：2%削減			■重機始業前点検および油漏洩処置道具の点検実施 ■油漏洩時対応訓練の実施 ■散水車での場内散水 ■作業効率化や重機使用燃料の削減策の検討/実施		
	資源循環への貢献(経営課題/顧客ニーズ)	セメント工場での再資源化請負業務の全量適正前処理 受入拒否：0件			■重機や機械設備トラブルの防止・対応 ■作業停止ロスの低減		
安全衛生活動	項目	目標値			実施項目の計画		
	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	
	安全	事故・災害：0件			■KY活動の完全実施 ■ヒヤリハット摘出とリスクアセスメントの実施 ■相互注意の実践 ■安全スキル向上教育の受講と周知会実施		
衛生	■個人健康目標達成率：80%以上 ■定期・特定健康診断受診率：100%			■個人健康目標の立案、進捗管理 ■定期・特定健康診断の受診、有所見者再検査の受診を推進			
防災	火災発生：0件			■火災訓練の実施 ■廃棄物置場の温度管理			

第三者意見



○プロフィール
大分県別府市出身。東京工業大学大学院博士後期課程修了。学術博士。中央環境審議会委員。

環境コンサルタント等を経て平成2年会社設立。環境教育のバイオニアとして、環境学習に関する調査研究、人材育成などの事業、市民や企業に対して講演を行うほか、NPOの代表として、環境・経済・人間社会のバランスの取れた環境文明社会の構築に向け、環境倫理、消費やグリーン経済、市民社会について研究を進めつつ活動を展開している。

認定NPO法人環境文明21代表

藤村 コノエ 氏

長年このレポートを拝見していますが、今年のレポートはSustainability Reportという名称に変わり、従来の各社ごとの取り組みではなくグループ全体の取り組みとしてまとめられ、構成も「理念」「攻め」「守り」「データ」とするなど、従来とは異なり新鮮な印象を受けました。

冒頭で、創業者である田中正敏会長のインタビュー記事が掲載されていますが、創業当初から守り続けてきた、「真面目に、楽しみながら、成長する」「情報を先取りし、正当な評価を受けつつ持続する」といったリマテックの精神ともいえることが語られており、人間味あふれるコメントばかりで、レポートへの導入としてとても効果的だと感じました。

また、田中靖訓社長のコメントからは、正敏会長の意思と使命をしっかり受け継ぎ、それを基盤としつつ、新たな「脱炭素」時代に向けた戦略、探求すべき方向性と道筋が語られていて、とても頼もしく思いました。これまで同様、“その時々の変化に対して自らも変化していく”姿勢、“誠実に挑戦し続ける”姿勢を忘れずにいれば、100年以上存続することも可能だと思えます。

「攻め」では、田中社長のメッセージにあったことが詳細に記載されています。ATARAは主に食品ロス、RF事業やトレーラーの活用は化石燃料使用削減という、いずれも喫緊の課題解決に貢献する従来からの取り組みですが、それに新たな取り組みも加わり、興味深く拝見しました。特に環境帳はあらゆる業種でCO₂排出量の見える化に使えるよう設計されているそうで、これはリマテックグループが早い時期から脱炭素化に取り組んできた経験の成果であるとともに、まだ脱炭素化に向けた取り組みが進んでいない中小企業を後押しするツールとして大いに期待されます。

また、公民連携の推進は、持続可能な脱炭素時代を生き抜くには業界のみならず公民の連携が不可欠という基本を先取りした取り組みです。リマテックグループがその先導役となったことは、長年リマテックグループを見てきた者としてとても誇らしいことであり、大阪発の「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」が広く全国にも広がることを期待しています。

さらに「守り」については、脱炭素への取り組みの継続と強化、真面目に仕事に取り組む仲間や地域を大切にするという従来からのリマテック精神がしっかり根付いていることが感じられます。

一方もう少し工夫してほしい点もあります。「攻め」「守り」という構成は面白いと思いますが、それぞれの前段部分に会長や社長の思いや価値観がどう引き継がれて反映されているのかが見えるような記載があると、読者にはもっと分かり易く楽しく読んでもらえる気がします。

また、16頁で私が作成した脱炭素とSDGsの関係性の図が使われていますが、全体の記載内容を見ると、SDGsが中心になっており、脱炭素とのつながりが見えづらいように思います。脱炭素はリマテックでは既に当たり前の取り組みになっているから、ということかもしれませんが、見せかけのSDGs、見せかけのグリーン(=「グリーン・ウォッシュ」)が横行する中で、リマテックの取り組みは、脱炭素につながるSDGsであることを明確に示すためにも、もう少し工夫した記載がほしいと感じました。

さらに、脱炭素について、数値としては2020年スコープ1が若干増加し、データからも電力削減の評価がいくつかのグループ会社で×の評価になっている点が気になります。SBT割合から見るとスコープ1(自社分)は僅かであり、自社の太陽光発電量がグループ全体の電気消費量を大きく上回っているのでも量的にはさほど問題ないように思いますが、読者からすると気になる点です。なぜそうなのかの記載も必要かと思えますし、これから脱炭素社会に向け更なる厳しい取り組みが求められることを考えると、先達を担うリマテックグループとして気を抜くことなく進めることが大切です。

COP26では、昇温1.5°C目標に向け世界が努力することやこの10年の取り組みが決定的に大切なことなどが合意され、国内では地球温暖化対策推進法に2050年までのカーボンニュートラルの実現が明記されるなど、世界中で脱炭素に向けた動きは加速しています。社会変革の真っ只中、リマテックグループの社員として、困難な時代に生きる人間として、覚悟と責任感を持って、この時代の大きな波を乗り越えるためのリーダーシップを発揮してほしいと期待しています。

第三者意見を受けて



RTT株式会社
代表取締役

久永 勇

2021年版は、従来の情報開示体系を刷新いたしました。従来の「CSRレポート」から「サステナビリティレポート」に進化させ、グループが企業としての社会的責任を果たすことで社会から信頼される企業となり、持続的な成長を目指すとともに、私たちの想いを共感し合える皆様と持続可能な社会(脱炭素社会)の実現に貢献していくという想いをより明確にお伝えいたしました。

さて、藤村様には「サステナビリティレポート2021」に対する第三者意見を賜り、誠にありがとうございます。

執筆にあたっては、グループの歴史や会長の想い、現在の取り組みを深くご理解いただいたうえで、中長期的な視点からのアドバイスを頂戴しており、あらためて感謝申し上げます。

いただいたご意見や当グループへの期待を受け止め、具体的な議論を進めながら持続可能な社会の実現に向けて取り組み、高くご評価いただいた点につきましては、今後も当グループの強みとして注力しつつ、さらなる期待に応えられるよう進歩させてまいります。

「攻め」では、主力事業の発展の可能性やこれまでの経験を生かした新しいアプリケーション開発事業などをご紹介いたしました。グループ全体の取り組みとしてまとめることで、分野をまたいだ横断的なイノベーションを創出する契機となることを期待したものです。これらはグループ内だけでなく、私たちの想いを共感し合える皆様とともにイノベーションを創出し、新しい市場を創りサービスを提供していきたいと考えております。

また、SDGsに対する考え方の伝え方に対する今後の課題についてご指摘をいただきました。私自身、このレポートの初回編集会議では、タイトルを「SDGsレポートではどうか」と、時流に翻弄されていたことを憶えています。グループとして2017年4月よりRE100加盟に向けて調査を開始し、脱炭素経営に取り組んできた経緯や想いを記載するなどして、脱炭素につながるSDGsであることを示してまいります。さらに「守り」のグループの脱炭素への活動結果は、ステークホルダーの皆様から信用していただくために公表しております。レポート発行当初の「事業の透明性を確保する」原点に戻り、疑問に思われることのないように積極的に情報公開を進めてまいります。本来の目的や求められる成果をしっかりと見据え、心地よい緊張感の中で真面目に取り組んでまいります。

今後もステークホルダーの皆様の声を真摯に受け止めながら「REMATECらしい」事業活動で、社会インフラを支え、社会に貢献できる企業グループとなるよう挑戦し続けてまいります。

グループ企業



リマテックホールディングス株式会社
<http://www.rematec.co.jp>

本社 / 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-438-4146 fax.072-422-3809



リマテック九州株式会社
<http://rematec-kyushu.com/>

本社・九州工場 / 〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906
tel.0974-32-7721 fax.0974-32-7731
津久見事業所 / 〒879-2471 大分県津久見市合ノ元町2-1
太平洋セメント株式会社 大分工場津久見プラント内
tel.0972-82-9055 fax.0972-82-7025



リマテック東北株式会社
<http://www.rematectohoku.com>

本社 / 〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字亀井田2-3
tel.0192-47-3526 fax.0192-47-3527
花巻ラボ / 〒025-0312 岩手県花巻市二枚橋5-6-3 B-7
tel.0198-41-3033 fax.019-903-0306



リマテックR&D株式会社
<http://www.rematec.co.jp/rd/>

本社 / 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526



RTT株式会社
<http://www.rt-rematec.co.jp>

本社 / 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0672 fax.072-280-0673
大阪支社 / 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-433-7880 fax.072-433-7881
九州支社 / 〒875-0201 大分県臼杵市野津町大字野津市648-1
tel.0974-32-7820 fax.0974-32-7821



株式会社レックス
<http://re-cs.co.jp>

本社 / 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-3-9
プレミアム長堀ビル6階
tel.06-6210-2327 fax.06-6210-2328



株式会社レックスRF(旧社名リマテック株式会社)
<http://www.rematec.co.jp/rematec/>

本社 / 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-438-6434 fax.072-422-3617



株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所
<http://bct2050.com/>

本社 / 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目2-20
第3虎の門電気ビルディング5階
tel.03-5209-2050 fax.03-3548-8245

編集後記

2021年度版では、名称を「サステナビリティレポート」に改め、当グループの持続可能な社会の実現に貢献している取り組みや想いについて、共感し合える仲間を増やすこと、ステークホルダーの皆様との信頼関係を深めることを目的として、今までとは少し違った形でご報告させていただきました。また、今回初めて田中会長にインタビューを行い、リマテックの原点を紐解き、これからは私たちが継承したい想いを編集することができました。試行錯誤しながら手作りで編集しており、読みづらい点もあろうかと存じますが、ご高覧のうえ当グループの活動をご理解いただければ幸甚でございます。今後もステークホルダーの皆様のご信頼を得られる取り組みを行い、またその情報開示を適切に行っていく所存です。

最後に当グループのレポートを最後まで目を通していただいている読者の皆様にご場をお借りして心より感謝申し上げます。

編集委員長:RTT株式会社 運行部運行課 課長 吉田 孝